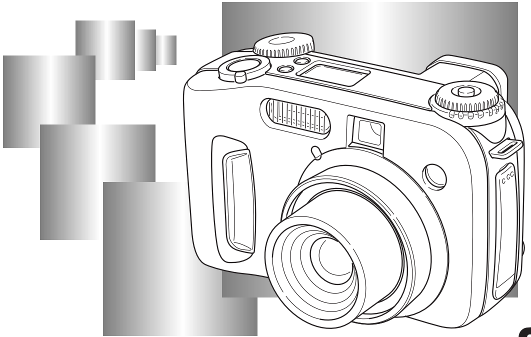
Z

液晶デジタルカメラ

QV-4000

取扱説明書（保証書付き）



ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買上げ頂き、まことにありがとうございます。本機は、撮影した内容をその場で見ることができる液晶カラーモニターを備えたコンパクトタイプの液晶デジタルカメラです。本機をご使用になる前に、必ず別紙の「安全上のご注意」をお読みになり、本書とともにお読みになった後も、大切に保管してください。

CASIO

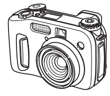
J

はじめに

付属品の確認

箱を開けたら、まず下記の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

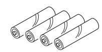
デジタルカメラ本体



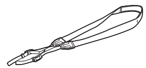
レンズキャップ／キャップホルダー

• レンズキャップは出荷時にデジタルカメラ本体に装着されています。

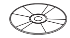
アルカリ電池（単3形×4）



ネックストラップ

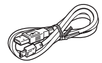


CD-ROM

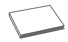


専用ビデオコード

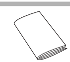
専用USBケーブル



取扱説明書



取扱説明書
（保証書付き）



専用ソフト取扱説明書
（インストール編）

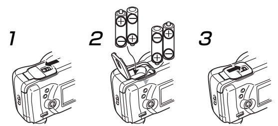
目次

早わかりガイド

準備をする

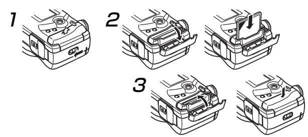
1

電池を入れます。（28ページ）



2

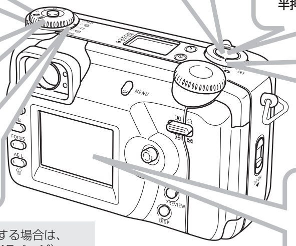
メモリーカードを入れます。（34ページ）



3

日付を設定します。（39ページ）

撮影する（詳細は41ページ参照）



1 【レンズキャップ】をはずします。

2 【露出モードダイヤル】を［A］（フルオート）に合わせます。

3 【ドライブモードダイヤル】を［□］（1枚撮影）に合わせます。

4 【電源／ファンクションスイッチ】を“📷”(REC)に合わせます。

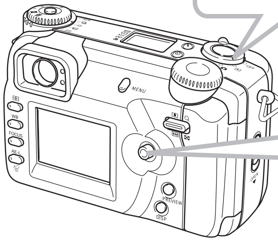
5 【レンズ】を被写体に向け、【液晶モニター】で確認しながら【シャッター】を半押ししてピントを合わせます。

6 【液晶モニター】内の【フォーカスフレーム】が緑色に点灯していることを確認します。

7 【シャッター】を全押しします。

ファインダーを使用して撮影する場合は、視度調整を行ってください（45ページ）。

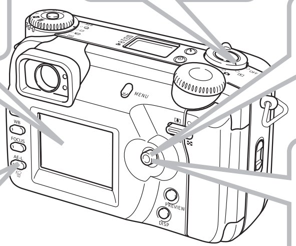
撮影した画像を見る（再生）（詳細は93ページ参照）



1 【電源／ファンクションスイッチ】を“▶”(PLAY)に合わせます。

2 【十字コントローラ】を左右に倒すと、記録した画像の送り／戻しができます。

撮影した画像を消す（詳細は101ページ参照）



1 【電源／ファンクションスイッチ】を“▶”(PLAY)に合わせます。

2 【十字コントローラ】を左右に倒して、消去する画像を選びます。

3 【AE-L 🗑】を押します。

4 現在表示されている画面が間違いなく消したい画像であることを確認してください。
- 消去を中止したい場合は【AE-L 🗑】を押してください。

5 【十字コントローラ】を下に倒して“はい”を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。（消去完了）

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部又は全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- デジタルカメラを使って撮影したものは、個人として使用するほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の商標です：

- Windows、およびInternet Explorerは米国マイクロソフト社の商標です。
- Macintoshは米国アップルコンピュータ社の商標です。
- CompactFlash、コンパクトフラッシュ、CFロゴは米国SanDisk社の商標です。
- IBMは米国IBM社の商標です。
- USBドライバはPhoenix Technologies社のソフトウェアを使用しています。

  Compatibility Software Copyright © 1997

  Phoenix Technologies Ltd., All Rights Reserved.
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

本機の特徴

こんな特徴があります

- 高画質413万画素原色CCDを搭載。肌の豊かな階調表現から風景の細かい描画まで、思い描いた画像を撮ることができます。
- キヤノン製大口径F2.0レンズを採用。コントラストが高く、緻密な描画を実現します。
- ポートレートや花の撮影時に効果を発揮する世界初デジタルソフトフォーカスを搭載
- リアルタイムヒストグラム機能を搭載。難しい露出条件でも、意図した露出の画像が手軽に撮影できます。
- 絞り値、シャッター速度、フォーカス方式などが一目で分かるコントロールパネルを搭載。液晶モニターがオフのときの使い勝手が向上しました。
- ドライブモードと露出モードが素早く切り替えられる2重ダイヤル方式を採用
- 暗い場所でのオートフォーカス精度を向上させるAF補助光
- フォーカスの中抜けを防止するマルチエリアオートフォーカス機能を搭載
- フォーカスの確認が容易にできるフォーカスエリア拡大機能を搭載
- 撮影した画像を素早く確認できるプレビュー機能を搭載
- 液晶モニターに1.8型TFT低反射カラー液晶(HAST)搭載
- 9.6倍シームレスデジタルズーム搭載:光学ズーム3倍／デジタルズーム3.2倍
- 外部フラッシュ接続可能
- メモリーカードとしてコンパクトフラッシュカード(CF TYPE I / II)とマイクロドライブに対応
- DPOF(Digital Print Order Format)対応
  カメラでプリントしたい画像を指定。DPOF対応のプリンターで簡単にプリントアウトができます。また、DPOF対応のサービスラボでもプリントの注文ができます。
- PRINT Image Matching対応
  PRINT Image Matching対応のプリンターを使用すれば、画像データに記録された撮影モードの情報などから、撮影意図を忠実に再現したプリントが可能になります。
- DCF(Design rule for Camera File system)対応
  DCF規格対応の他社のデジタルカメラやプリンターなどと画像の互換性があります。
- ビデオ出力端子搭載
  撮影した画像を簡単にご家庭のテレビでご覧いただけます。
- USB接続対応
  パソコンに簡単にデータを取り込むことができます。
- 撮影した画像をパソコンで活用できるソフトが付属
  画像取込みソフトPhoto Loader、画像加工・印刷ソフトPhotohands※、パノラマ画像編集ソフトPanorama Editor※などが付属のCD-ROMに収録されています。
  ※ Windows版のみの付属となります。

こんな機能もあります

◆被写体や撮影意図に合った設定を簡単設定(ベストショットモード)

(66ページ)

◆動画を撮影(ムービーモード)

(79ページ)

◆自動的に露出を変化させて撮影(AEB撮影)

(77ページ)

◆画像を横につなげて撮影するパノラマ撮影(パノラマモード)

(78ページ)

◆各種フォーカスモードの選択が可能(5通り)

マルチエリアオートフォーカス、スポットオートフォーカス、マニュアルフォーカス、無限遠、マクロ

(53～57ページ)

◆各種測光方式の選択が可能(3通り)

マルチパターン測光、中央重点測光、スポット測光

(59～60ページ)

◆各種露出モードの選択が可能(5通り)

フルオート、プログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AE、マニュアル露出

(71～75ページ)

使用上のご注意

データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

  − 記録中に電池をはずしたり、ACアダプターをはずした
  − 撮影中などにメモリーカードを抜いた
  − 電源をOFFにしたときに【動作確認用／カードアクセスランプ】が点灯している状態で電池やACアダプターを抜いた、【メモリーカードカバー】を開けた、メモリーカードを抜いた
  − USB接続中のケーブルはずれ
  − 消耗した電池を使用し続けた
  − その他の異常操作

このような場合、次の表示が出ましたら、画面に対応したご処置をお願いいたします。

- メモリーカードが異常です
- フォーマットされていません

➡ 画面に表示されるメッセージとその対処方法(131ページ)。

使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃～40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  − 直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  − 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  − 日中の車内、振動の多い場所

結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く(結露)ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、使用してください。

レンズについて

- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮されませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機では、沈胴式レンズを採用しています。電源の入／切やズーム操作などにより、レンズが移動しますので、無理な力を加えたり、レンズを下向きに伏せて机などの上に置かないでください。また、撮影をするときはレンズキャップをはずしてから電源を入れてください。
- レンズキャップを付けたまま【電源／ファンクションスイッチ】を"📷"にすると【液晶モニター】に"LENS CAP"と表示したのち自動的に電源が切れます。レンズキャップをはずしてから再度"📷"にし直してください。
- 本機では、レンズが飛び出している状態で電池やACアダプターを抜かないでください。レンズが収納されず、故障の原因となります。

蛍光管について

- 液晶画面のバックライトに使用されている蛍光管には寿命があります。液晶画面が暗くなったり、チラつく場合は、最寄りのカシオテクノ・サービスステーション(136ページ)までご連絡ください。有償にてお取り替え致します。蛍光管の寿命は、一日2時間のご使用で約6年間です。
- 低温でご使用の場合は、バックライトが点灯するまでに時間がかかったり、赤味を帯びることがありますが、故障ではありません。しばらくすると正常に戻ります。

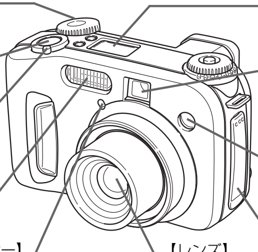
準備

初めてご使用になるかたはここからお読みになり、撮影前の準備を行ってください。

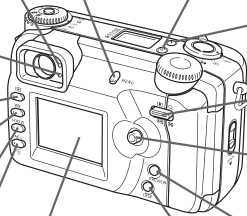
各部の名称

この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【　】を使って表記します。スイッチやボタンなどの場所がわからなくなった場合は、こちらをご参照ください。

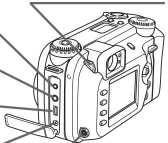
前面部

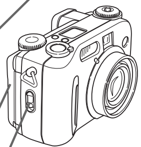


背面部

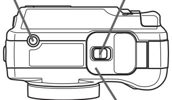


側面部

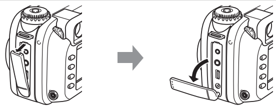




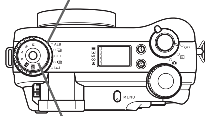
底面部



端子カバーの開きかた



モードダイヤル部



■ドライブモードダイヤル

AEB	AEB(段階露出)撮影	77ページ
	連続撮影	76ページ
	1枚撮影	48ページ
	ムービー撮影	79ページ
	パノラマ撮影	78ページ

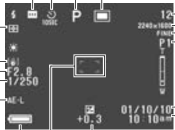
■露出モードダイヤル

M	Mモード(マニュアル露出)	75ページ
S	Sモード(シャッター速度優先AE)	73ページ
A	Aモード(絞り優先AE)	72ページ
P	Pモード(プログラムAE)	72ページ
A	フルオートモード	41、71ページ
BS	ベストショットモード	66ページ

液晶モニター

【液晶モニター】にさまざまな情報が表示されます。

● RECモード時



フォーカスモード
- （マルチエリアオートフォーカス）
- （スポットオートフォーカス）
- MF（マニュアルフォーカス）
- ∞（無限遠）
- （マクロ）

セルフタイマー

ドライブモード
- （1枚撮影）
- （連続撮影）
- AEB（AEB撮影）
- （ムービー）
- （パノラマ）

露出モード
- M（Mモード）
- S（Sモード）
- A（Aモード）
- P（Pモード）
- AUTO（フルオートモード）
- BEST SHOT（ベストショットモード）

測光方式表示
- （マルチ測光）
- （中央重点測光）
- （スポット測光）

手ぶれ警告表示

絞り

シャッター速度
- 絞りとシャッター速度はAEが適正範囲でない場合はオレンジ色で表示されます。

AE-ロック表示

バッテリー残量表示

撮影可能枚数

画質
- FINE（高精細）
- NORMAL（標準）
- ECONOMY（エコノミー）
- TIFF（非圧縮）

画像のサイズ
- 2240×1680pixels
- 2256×1504pixels
- 1600×1200pixels
- 1280× 960pixels
- 640× 480pixels

撮影情報
- ムービーモード時 ..... 秒数
- パノラマモード時 ..... P1〜P10

フォーカスフレーム
- ピント合わせ完了時：緑
- ピント合わせ不可時：赤

メモリーカード未挿入警告

露出補正表示

日付／時刻
（現在の日時が2秒間表示されます）

フラッシュモード
- 表示なし（自動発光）
- （強制発光）
- （発光禁止）
- （赤目軽減）
- 自動発光時にフラッシュ発光する場合は マークが表示されます。

ホワイトバランス表示
- （太陽光）
- （日陰）
- （電球）
- （蛍光灯）
- MWB（マニュアル）

ズームバー
- 下半分が光学ズーム域
- 上半分がデジタルズーム域

● PLAYモード時

- フォルダ番号
- プロテクト表示
- ファイル番号
- 画像のサイズ
- 画質
- フォルダ名／ファイル番号
- 日付／時刻
- バッテリー残量表示

液晶モニターの表示内容を切り替える

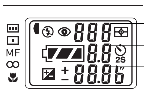
【DISP】を使って、【液晶モニター】に表示される内容を切り替えることができます。

ヒストグラム表示オン（64、97ページ）
↓【DISP】
情報表示オン（21〜22ページ）
↓【DISP】
情報表示オフ
↓【DISP】
液晶モニターオフ
↺【DISP】

重要! • ムービー撮影／再生時には、ヒストグラムは表示されません（79、93ページ）。

コントロールパネル表示

撮影時に以下の状態であることを表示します。【液晶モニター】を消しているとき、撮影状態の確認用に使用します。
本書の説明では、【液晶モニター】に表示される画面情報表示を使用します。

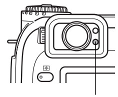


	マルチエリアオートフォーカス表示	数字1	撮影可能枚数／ファイル番号
	スポットオートフォーカス表示		マルチ測光表示
			中央重点測光表示
MF	マニュアルフォーカス表示		スポット測光表示
			バッテリー残量表示
∞	無限遠表示	数字2	絞り値
	マクロ表示	2S	セルフタイマー設定時間
	フラッシュ発光禁止表示		
	フラッシュ強制発光表示		露出補正
	フラッシュ赤目軽減表示	数字3	シャッター速度／露出補正値

ランプについて

動作確認用／カードアクセスランプ

操作によって、点灯したり、点滅したりします。点灯／点滅によって、次の内容を表しています。



【動作確認用／カードアクセスランプ】

■撮影時

発光色	点　滅
緑　色	起動中／記録中／ムービー撮影スタンバイ

• 消灯は撮影可能を意味します。

■シャッター半押し時

発光色	点　灯
緑　色	ピント合わせ完了
赤　色	ピント合わせ不可

■再生時

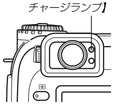
発光色	点　滅
緑　色	消去中／フォーマット中／バッテリー警告／カードブラウザ作成中
赤　色	メモリーカード異常

• 再生時に【液晶モニター】をオフにすると、緑色に点灯します。

重要! • 【動作確認用／カードアクセスランプ】が点滅中に【メモリーカードカバー】を開けることは絶対にお止めください。撮影された画像がメモリーカードに記録されずに消えてしまいます。

フラッシュチャージランプ

操作によって、点灯したり、点滅したりします。点灯／点滅によって、次の内容を表しています。



■撮影時

発光色	点　滅
オレンジ色	フラッシュ充電中

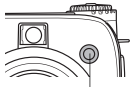
■シャッター半押し時

発光色	点　灯
オレンジ色	発光予告

重要!
- 電池が消耗すると、【動作確認用／カードアクセスランプ】が緑色点滅、【フラッシュチャージランプ】がオレンジ色点滅したのち、約1秒後に自動的に電源が切れます。その場合は、速やかにすべて新しい電池と交換してください。

AF補助光／セルフタイマーランプ

暗い場所などで撮影しようとしたとき、ピントを合わせやすくするために、自動的に補助光を発光します。
また、セルフタイマー撮影を行うときにカウントダウン用にランプが点滅します。



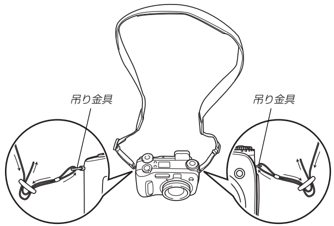
【AF補助光／セルフタイマーランプ】

重要!
- AF補助光によってオートフォーカス機能のピント合わせが可能な距離は、約2.5mまでです。
- フォーカスモードがマルチエリアオートフォーカス、スポットオートフォーカスの場合、補助光発光時は自動的にフォーカスエリアがセンターに指定されたスポットオートフォーカスになります(54、55ページ)。
- 【AF補助光／セルフタイマーランプ】を覗いたり、人の目に当てないように注意してください。

付属品の使いかた

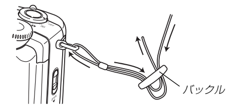
ネックストラップの取り付けかた

ネックストラップは、図のように吊り金具に取り付けます。



ネックストラップの長さ調節

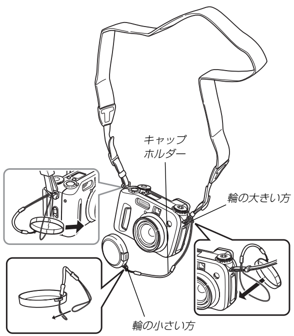
ネックストラップの長さは、ネックストラップのバックル部分で調節してください。



重要!
- カメラ操作時は、落下を防止するため、必ずネックストラップを首から下げた状態で使用してください。
- 付属のネックストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ネックストラップを持って本機を振り回さないでください。
- ネックストラップを首にかけたまま本機を固定しないで持ち運ぶと、本体に衝撃を与えたり、ドアに挟まったりして、故障やケガの原因となりますのでご注意ください。
- 本機は、幼児の手の届かないところへ保管してください。誤ってストラップが首に巻きつくなど、事故発生の恐れがあります。

レンズキャップの取り付けかた

本機をご使用にならないときは、必ずレンズキャップを取り付けてください。本機の電源を切り、レンズが本体に収納された状態でレンズキャップを取り付けてください。



- レンズキャップをキャップホルダーでネックストラップまたは吊り金具につなぎ止めることで紛失防止ができます。

重要!
- レンズキャップをレンズに取り付けたままで電源を入れないでください。

電源について

本機は下記のいずれかの電源が利用できます。

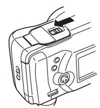
- 電池
  単3形アルカリ電池LR6：4本
  単3形リチウム電池FR6：4本
  リチウム電池パックCR-V3P：2個
  単3形ニッケル水素蓄電池NP-H3：4本

- 家庭用電源
  ACアダプター：AD-C630J
  ACアダプターチャージャー：BC-3HA

電池を使う

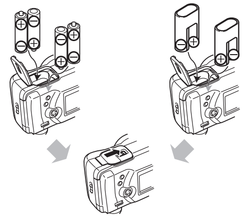
電池交換の際は、電源を切った状態で行ってください。

1. **本体底面の【ロックツマミ】を矢印の方向にスライドさせて、【電池カバー】を開きます。**



2. **電池を図のようにセットした後、【電池カバー】を押しつけながら閉め、【ロックツマミ】を矢印の方向にスライドさせます。**

- 単3形電池の場合
- リチウム電池パックの場合



重要!
- マンガン電池は使用できません。必ず単3形の指定電池、または指定のリチウム電池パックをご使用ください。
- リチウム電池パックの装填は正しく行ってください。間違った向きには入らないように設計されていますが、無理に入れようとすると故障の原因となります。

■電池寿命の目安

下記の電池寿命は、標準温度(25℃)で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

使用電池	連続再生時間	連続撮影時間(撮影枚数)
単3形アルカリ電池LR6	約3時間	約1時間15分(約460枚)
単3形リチウム電池FR6	約5時間20分	約3時間　(約1130枚)
リチウム電池パックCR-V3P	約6時間	約3時間25分(約1230枚)
単3形ニッケル水素蓄電池NP-H3	約3時間	約1時間40分(約600枚)

- 測定条件
  標準温度(25℃)／連続撮影／フラッシュ非点灯／
  1枚撮影毎に光学ズームを望遠端～広角端に1回動作させる
- 使用電池
  単3形アルカリ電池LR6　：松下電池工業(株)製
  単3形リチウム電池FR6　：富士写真フイルム(株)製
  リチウム電池パックCR-V3P：松下電池工業(株)製
  ※ 電池寿命は電池メーカーによって異なります。
- 仮に上記条件で1分毎に1枚ずつ撮影した場合、上記数値の約1/6になります。
- フラッシュやズームなどの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。
- 各電池の特性の違いからバッテリー残量表示の変化のスピードも各々で異なります。

■電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しないで撮影するときは、【⚡】を押して(発光禁止)に設定してご使用いただくと電池寿命が長くなります。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能(33ページ)を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな電力消費をおさえることができます。
- 【DISP】を押して【液晶モニター】をオフにすると、消費電力が小さくなります。

■電池特性による注意事項(アルカリ電池について)

アルカリ電池の寿命は、メーカーや保存期間、使用温度、撮影条件により大きく異なります。通常ご使用になる場合、アルカリ電池よりも寿命の長いニッケル水素蓄電池やリチウム電池のご使用をおすすめいたします。

例1：断続的に使用した場合は、電池寿命は短くなります。

- 条件：常温(25°C)
  1分毎にズームを1.5往復、フラッシュを発光し1枚ずつ、10分間撮影 → 1分間再生 → 9分間電源を切る。この操作を繰り返す。
- 撮影時間約35分／撮影枚数約32枚

例2：低温下で使用した場合、電池寿命は短くなります。

- 条件：低温(0°C)
  1分毎にズームを1.5往復、フラッシュを発光し1枚ずつ、10分間撮影 → 1分間再生 → 9分間電源を切る。この操作を繰り返す。
- 撮影時間約8分／撮影枚数約8枚

■リチウム電池パック(CR-V3P)のご利用について

この電池は、デジタルカメラなどの大容量の電流を必要とする機器向けに新たに開発されたものです。ご使用にあたっては、以下の説明をよくお読みください。なお、この電池に関する詳細仕様、販売店等に関しては以下へお問い合わせください。

松下電器産業株式会社　お客様ご相談センター
フリーダイヤル　0120-878-365(受付時間 9:00～20:00)

- 従来のアルカリ電池やリチウム電池に比べて容量が非常に大きいため、長時間の連続使用が可能です。
- 温度特性に優れており、低温時にも安定した電力を供給できます。
- 保存特性に優れており、長時間放置しておいても自己劣化が非常に少なく安定しています。

重要！
- ご使用になる前に、電池本体や包装に記載されている注意事項をよくお読みください。
- 電池には安全装置が設けられていますが、容量が大きいため、金属によるショート等には充分注意してください。
- 放電特性の違いから、カメラでのバッテリー残量表示の減りかたが他の電池の場合と異なり、寿命がつきる時期になるとから へ急速に変化します(31ページ)。

■充電式電池のご利用について

充電式電池は、別売のニッケル水素蓄電池(NP-H3)をお使いください。他の充電式電池については動作保証いたしかねます。

ACアダプターチャージャー　：BC-3HA
ニッケル水素蓄電池／急速充電器セット：BC-1HB4
ニッケル水素蓄電池(4本セット)　：NP-H3P4

重要！
- 電池は、必ず同じ製品を4本セットでご使用ください。違う種類の電池や、充電状態の異なる電池を組み合わせてご使用になると、電池寿命を短くしたり、カメラの故障の原因となります。
- カメラでは充電できません。

■電池使用時の注意事項

- ●電池は使いかたを誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災、けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。
  - 極性(⊕と⊖の向き)に注意して正しく入れてください。
  - 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
  - 種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
  - 本機で指定されている電池以外は使用しないでください。
- ●電池は、充電(充電池以外使用時)や分解、ショートする恐れのあることはしないでください。また、加熱したり火の中へ投入したりしないでください。
- ●使えなくなった電池は漏液して故障の原因となりますので、すぐに取り出してください。

- 2週間以上使用しないときは、取り出しておいてください。
- 電池が消耗してくると熱を持ちますが故障ではありません。

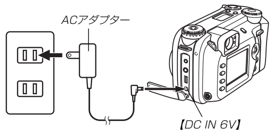
■バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】や【コントロールパネル】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。 や の状態で使用し続けると、自動的に電源が切れます。速やかにすべて新しい電池と交換してください。
本書の説明では【液晶モニター】の表示を使用します。

電池残量	多 ←→ 少			
液晶モニター表示		→		→
コントロールパネル表示		→		→

家庭用電源を使う

家庭用コンセントから電源を取るには次のアダプターをご使用ください。



- ACアダプター：AD-C630J(別売)
  ※ ACアダプターは米国などAC100～120Vの電源地域への旅行の際は、そのままご使用になれます。
- ACアダプターチャージャー：BC-3HA(別売)
  ※ ACアダプターチャージャーはACアダプターの機能と、単3形ニッケル水素蓄電池の充電機能を備えています。また、単3形ニッケル水素蓄電池が4本同梱されています。
  ※ ACアダプターチャージャーはAC100～240Vの電源に対応しており、海外への旅行の際もご利用になれます。海外でのご使用では、各地域に合った市販の電源コードをお買い求めください。

■ACアダプター使用時の注意

- ●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります(ACアダプターは別売本機専用をご使用ください)。
- ●ACアダプターの電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。
- ●ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●万一、ACアダプターの電源コードが傷んだら(芯線の露出・断線など)、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- ACアダプターを抜き差しする際は、必ず本機の電源を切った状態で行ってください。
- 本機に電池をセットした状態でACアダプターを使う場合でも、電源を入れたままACアダプターの抜き差しをするのはおやめください。電源を入れたままACアダプターの抜き差しを行うと製品保護のために本機の電源は一度切れますが、保護しきれずに故障の原因となります。
- ACアダプターは、長時間ご使用になりますと若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。
- ACアダプターのプラグを差し込むと、電池よりもACアダプターが優先されます。
- パソコンと接続する際は、ACアダプターをお使いください。

電源を入れる／切る

本機は【電源／ファンクションスイッチ】を使用して電源を入れたり切ったりします。

“ ”：電源が入り、撮影できる状態(RECモード)になります。
“ ”：電源が入り、再生できる状態(PLAYモード)になります。
“OFF”：電源が切れます。

重要!
- レンズキャップをレンズに取り付けたままで【電源／ファンクションスイッチ】を“📷”(REC)に合わせないでください。
- レンズを下に向けて置いた状態で【電源／ファンクションスイッチ】を“📷”(REC)に合わせないでください。
- オートパワーオフ機能で電源が切れた場合は、一度“OFF”に合わせてから、再度電源を入れてください。

電池の消耗をおさえるための機能

電池の消耗をおさえるために、以下の2通りの設定ができます。

オートパワーオフ：一定時間操作しないと電源が切れます。

スリープ：RECモード時に一定時間操作をしないと、【液晶モニター】のみ消灯します。ボタン操作をすると【液晶モニター】が再度点灯します。

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“📷”(REC)に合わせます。**

2. **【MENU】を押して設定したい項目を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。**

メニューのたどりかた(38ページ)：
オートパワーオフの設定：“省電力設定”→“オートパワーオフ”
スリープの設定　　　　：“省電力設定”→“スリープ”

3. **【十字コントローラ】を上下に倒して設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。**

オートパワーオフの設定内容：“2分”“5分”
スリープの設定内容　　　　：“切”“30秒”“1分”“2分”

4. **【MENU】を押して設定を終了します。**

- PLAYモードではオートパワーオフの設定時間は5分に固定されます。
- PLAYモードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- スリープとオートパワーオフの設定が共に2分の場合はオートパワーオフの方を優先します。すなわち、2分間操作をしないと電源が切れます。
- 以下の状態では、オートパワーオフは働きません。

－ スライドショー中
－ 本機のUSB接続端子を通じて本機を外部のパソコンなどと接続しているとき
－ ACアダプターを接続しているとき

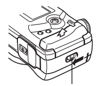
メモリーカードについて

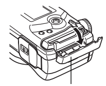
本機は、撮影画像の記録用としてメモリーカード(コンパクトフラッシュカード<CF TYPE Ⅰ/Ⅱ>、またはマイクロドライブ)を使用します。

重要!
- メモリーカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- カードには、表裏と端子の向きがあります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。

メモリーカードを入れる

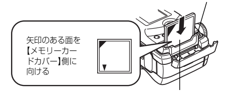
1. **【開閉レバー】を矢印の方向にスライドさせて、【メモリーカードカバー】を開きます。**



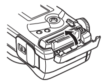


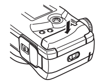
2. **メモリーカードの矢印のある面を【メモリーカードカバー】側に向け、しっかり押し込みます。**

- 【イジェクトボタン】が出ているときは【イジェクトボタン】を押し込んでからメモリーカードを入れてください。



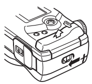
3. **【メモリーカードカバー】を閉めます。**

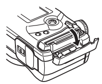




メモリーカードを取り出す

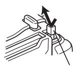
1. **【開閉レバー】を矢印の方向にスライドさせて、【メモリーカードカバー】を開きます。**



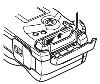


2. **【イジェクトボタン】を押します。**

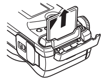
- 1回押すと、【イジェクトボタン】が飛び出します。



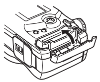
3. **【イジェクトボタン】を深く押し込みます。**

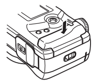


4. **メモリーカードを取り出します。**



5. **【メモリーカードカバー】を閉めます。**





重要!
- 故障の原因となりますので、メモリーカード挿入部にはメモリーカード以外のものを入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池・ACアダプターを抜いて、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。
- メモリーカードの挿入部を下にしたまま、カードを取り出さないでください。メモリーカードが落下して、故障やデータが破壊する場合があります。
- 【動作確認用／カードアクセスランプ】が点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像がメモリーカードに記録されなかったり、メモリーカードを破壊する場合があります。

メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要!
- 画像データにメモリープロテクト(106ページ)をかけていても、メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。
- メモリーカードをフォーマットすると、CD-ROMからコピーしたベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいますので、その場合は必要に応じて再度シーンファイルを取り込んでください(67ページ)。
- 一度メモリーカードをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマットしてもよいかをよく確かめてから行ってください。

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“📷”(REC)または“▶”(PLAY)に合わせます。**

2. **【MENU】を押して“フォーマット”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します(38ページ)。**

3. **【十字コントローラ】を上下に倒して“はい”を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。**

はい　：フォーマットを実行します。
いいえ：フォーマットを実行しません。

メモリーカードのご注意

■メモリーカードについて

- 本機はメモリーカードが装着されていないと画像が記録できません。必ずメモリーカードを装着してください。
- メモリーカードは必ずカシオ製またSanDisk社製のコンパクトフラッシュカード、またはIBM社製マイクロドライブを使用してください。他社のメモリーカードをお使いの場合は動作保証できません。
  また、動作確認を行ったメモリーカードについては、カシオホームページをご覧ください。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消滅または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディアにバックアップすることをおすすめします。
- 万が一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマットの操作で復帰できますが、外出先などでこの操作を行えない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちいただくことをおすすめします。
- 異常と思われる画像を撮影したり、新たにメモリーカードをご購入された場合は、一度フォーマット(初期化)してお使いいただくことをおすすめいたします。
- フォーマットの操作を行うときは、ACアダプターを使用するか、指定の新品の電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行われず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。

■IBM社製マイクロドライブのご注意

本機でのIBM社製マイクロドライブの動作は確認されていますが、ご使用にあたっては以下の注意事項をお読みになり、取り扱いには十分注意してください。

- ご使用の前に必ずマイクロドライブに付属の取扱説明書をよくお読みください。
- ご使用の際、マイクロドライブ自体が熱を持つことがあります。カメラから取り出すときは十分ご注意ください。
- マイクロドライブの抜き差しの際は、ラベル面を強く押さないようにしてください。内部が圧迫され、故障の原因となることがあります。
- 【動作確認用／カードアクセスランプ】が点滅中は、電源を切ったり、衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- マイクロドライブの内部は非常に精密です。装着したカメラが落下した場合、カメラは故障しなくてもマイクロドライブは故障する場合があります。カメラに付けた状態でも、取り扱いには十分注意してください。
- マイクロドライブは容量が非常に大きいため、ご使用の状況によっては処理に時間がかかる場合があります。
- マイクロドライブは、その特性上、気圧の低いところでは正常に動作しない場合があります。標高の高い場所でのご使用は避けてください。
- マイクロドライブはコンパクトフラッシュカードに比べて大きな電力を必要とします。使いかたによって、電池寿命が極端に短くなる場合があります。また、アルカリ電池では使用環境、電池メーカーの違いなどによって、ほとんど動作しない場合があります。マイクロドライブを使用される場合、ニッケル水素蓄電池、またはリチウム電池のご使用をおすすめいたします。
- 電池残量が充分でないときは、マイクロドライブの保護のため撮影間隔が長くなります。
- 本機は、コンパクトフラッシュカードとマイクロドライブの両方が使用できるよう設計していますが、マイクロドライブはコンパクトフラッシュカードにくらべ、若干取り出しにくいことがあります。

■マイクロドライブの故障について

万一故障した場合は、マイクロドライブの販売元、あるいは指定の連絡先にお問い合わせください。当社ではマイクロドライブの故障に関してのサポートはしておりません。また、その際のデータの消失に対しても責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

メニュー画面の操作

本機ではメニュー画面を使用して様々な操作を行います。この操作をまず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC（撮影）モードとPLAY（再生）モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの操作を説明します。

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“ ”（REC）に合わせます。**
- PLAYモードの機能を設定する場合は“ ”（PLAY）に合わせます。

2. **【MENU】を押します。**

【十字コントローラ】の上下
：項目を選択します。
【十字コントローラ】の右
：詳細設定画面が表示されます。
【十字コントローラ】のセンター方向
：選択した項目に決定します。
【MENU】：メニュー画面を表示する前の状態に戻ります。

3. **【十字コントローラ】を上下に倒して設定したい項目を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。**

4. **設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。**

- メニューの内容については「メニュー一覧表」（124ページ）を参照してください。

日付の設定

お買い上げ後初めて撮影をする前に、日付を設定してください。この日付は、ファイル名やファイル情報、画像上に貼り付けられる「タイムスタンプ」（85ページ）などに利用されます。

重要!
- 電池や、ACアダプターで電源が供給されないと、約24時間で日付がリセットされます。
- 時刻が点滅している場合は、日付がセットされていない、またはリセットされていることが考えられますので、日付を設定してください。
- 日付を設定しないと、間違った時間データによる「ファイル名」「タイムスタンプ」の機能が働いてしまいます。必ず設定してください。

日付と時刻を設定する

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“ ”（REC）または“ ”（PLAY）に合わせます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“日付”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。**

4. **“時刻設定”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。**

5. **設定項目を選び、日付と時刻を合わせます。**

紫色のカーソル

【十字コントローラ】の左右
：紫色のカーソル（選択枠）を移動させます。
【十字コントローラ】の上下
：紫色のカーソル（選択枠）の部分の数字などを変えます。

6. **【十字コントローラ】をセンター方向に押して決定します。**

7. **【MENU】を押して設定を終了します。**

日付の表示方法を変える

画面上での日付の表示方法を3通りの中から選ぶことができます。

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“ ”（REC）または“ ”（PLAY）に合わせます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“日付”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。**

4. **“表示スタイル”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。**

5. **設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押して決定します。**

例）2001年10月23日
年／月／日：01/10/23
日／月／年：23/10/01
月／日／年：10/23/01

6. **【MENU】を押して設定を終了します。**

基本撮影

ここでは最も基本的な撮影方法（フルオート撮影）や基本的な設定について説明します。

基本的な撮影（フルオート撮影）

本機では初心者の方でも安心して簡単に撮影できるフルオート撮影機能を搭載しています。ここではフルオート撮影について説明します。

- 被写体の明るさや撮影環境に応じて、ピント合わせ、シャッター速度や絞り値、フラッシュ発光などの撮影条件をカメラが自動的に判断し、撮影することができます。

重要! • フルオート撮影では【シャッター】、【DISP】、【ズームレバー】、【セルフタイマー】以外のキーは使用できません。詳しくは「プログラムAEとフルオートの違いについて」（72ページ）を参照してください。

1. **電源を入れる前にレンズキャップをはずします。**

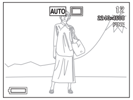
2. **【露出モードダイヤル】を［A］（フルオート）に合わせます。**

3. **【ドライブモードダイヤル】を［□］（1枚撮影）に合わせます。**

4. **【電源／ファンクションスイッチ】を"カメラ"（REC）に合わせます。**

カメラ ：RECモードになり、撮影できる状態になります。
再生 ：PLAYモードになり、再生できる状態になります。
OFF ：電源が切れます。

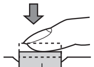
5. **【液晶モニター】で撮影したい構図を決めます。**



- 【ファインダー】を使って撮影するときは【DISP】を押して、【液晶モニター】を消してください。

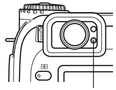
6. **【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。**

- 【シャッター】を半押しすると、【液晶モニター】に【フォーカスフレーム】が点灯します（54ページ）。
- マルチエリアオートフォーカス機能（54ページ）により自動的にピントが合い、シャッター速度と絞り値が表示されます。



【シャッター】

- ピントは【フォーカスフレーム】や【動作確認用／カードアクセスランプ】の点灯のしかたで知ることができます。

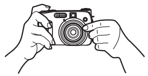


【動作確認用／カードアクセスランプ】

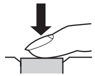
ピントが合う
【フォーカスフレーム】 ：緑色点灯
【動作確認用／カードアクセスランプ】 ：緑色点灯

ピントが合わない
【フォーカスフレーム】 ：赤色点灯
【動作確認用／カードアクセスランプ】 ：赤色点灯

- レンズや各センサーを指でふさがないでください。



7. **ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。**



- 撮影された画像は、いったん本機に内蔵のバッファメモリーに記憶され、順次メモリーカードに保存されます。バッファメモリーがいっぱいになるまで、連続して撮影を続けることができます。
- 画質によって保存できる枚数が異なります（81ページ）。
- 手ぶれを起さないために、【シャッター】は静かに押してください。

重要! • 以下のような条件では、1枚撮影するごとに"しばらくお待ち下さい"と表示した後、画像がメモリーカードに保存されます。
 – 画質をTIFF形式（非圧縮）に設定時（81ページ）
 – ムービー撮影、パノラマ撮影時（78、79ページ）
 – ベストショット撮影で一部のシーンを選択したとき（66ページ）
 – コンパクトフラッシュカード使用時にバッテリー残量表示が［電池］になったとき（31ページ）
 – マイクロドライブ用時にバッテリー残量表示が［電池］になったとき（31ページ）
• フルオート撮影の場合、自動的に設定される撮影条件がいくつかあります。詳しくは「フルオートモードの撮影条件」（126ページ）を参照してください。

撮影時のご注意

- メモリーカードに記録中は、電池・ACアダプター、およびメモリーカードを絶対に抜かないでください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊される恐れがあります。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー（人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき）を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。

フォーカスについて

フルオート撮影では、マルチエリアオートフォーカス機能により、3つの測距点の中で距離が一番近い被写体に自動的にピントを合わせます。ただし、ピントを合わせることができる範囲は約30cm～∞です。

重要! • フルオート撮影では、ピント合わせの方法を切り替えることはできません（53ページ）。

● オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。
 – 階調の無い壁などコントラストが少ない被写体
 – 強い逆光のもとにある被写体
 – 光沢のある金属など明るく反射している被写体
 – ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 – カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 – 暗い場所にある被写体
 – 手ぶれをしているとき
 – 動きの速い被写体
- 【動作確認用／カードアクセスランプ】が緑色に点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑色で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。

電池消耗時の画像記録について

電池が消耗し、バッテリー残量表示が［電池］になったときは、画像の記録もれを防ぐため1枚撮影するたびに"DISP この画像の記録を中止"というメッセージが表示されます。【DISP】を押すと、画像の記録がキャンセルされます。【DISP】を押さなければ、そのまま数秒後に撮影した画像は記録されます。

- マイクロドライブ使用時はバッテリー残量表示が［電池］になったときに、メッセージが表示されます。
- パノラマモード、ムービーモード、ベストショット撮影での一部のシーンでは電池が消耗していなくてもメッセージが表示されます。
- 液晶オフ時は、このメッセージは表示されません。

撮影時の画面について

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の映像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、記録画素数は確保されています。メモリーカードには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

光学ズームを使って撮影する

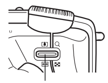
光学ズーム機能により、レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1～3倍

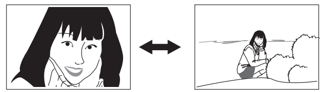
1. **RECモードにします。**

2. **【ズームレバー】を倒して、ズームの倍率を変えます。**

［望遠］（望遠）：望遠になります。
［広角］（広角）：広角になります。



【ズームレバー】



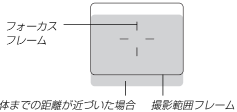
望遠　　　広角

3. **【シャッター】を押して撮影します。**

参考 • 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。望遠側では絞りの値が大きくなります。本機で表示している絞りの値は光学ズーム1倍時の値です。
• 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため三脚の使用をおすすめします。

ファインダーを使って撮影する

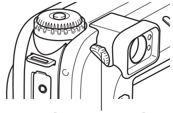
本機には【ファインダー】が付いていますので、電池の消耗をおさえるために【液晶モニター】をオフにし、【ファインダー】を使って撮影することができます。



重要!
- 撮影範囲フレームは約3m離れた被写体を撮影した場合の範囲を表します。被写体の距離が近かったり遠かったりする場合、視差の関係で実際に写る範囲が異なります。
- マクロモードやマニュアルフォーカスモードにすると、自動的に【液晶モニター】がオンになりますので、【液晶モニター】をファインダーとして使用してください。【液晶モニター】は視差の問題がないため、記録される画像が正しく表示されます。

■ファインダーの度数を調整する

【視度調整ダイヤル】を使うと、撮影する方の視力に応じて【ファインダー】の度数を調整することができます。被写体が鮮明に見えるように調整してください。



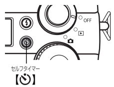
重要!
- 電源が切れている状態や再生モードでは、【ファインダー】のピントは合っていません。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーは2通りの時間が設定できます。

1. RECモードにします。

2. 【(セルフタイマー)】を押して時間を選びます。



- 【(セルフタイマー)】を押すたびに【液晶モニター】に次の順で時間が表示され、切り替わります。

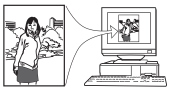
表示なし(切)：セルフタイマーは使用できません。
10SEC：10秒後に撮影されます。
2SEC：2秒後に撮影されます。

3. 【シャッター】を押して撮影します。
- 【AF補助光／セルフタイマーランプ】がカウントダウンの点滅を行います。また、【液晶モニター】が点灯している場合は、【液晶モニター】に10秒または2秒のカウントダウンが表示されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

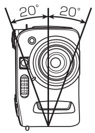
参考
- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒を利用すると手ぶれ防止になります。
- 連続撮影では、セルフタイマーは使用できません(76ページ)。

縦横認識機能

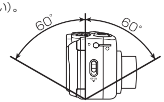
本機は撮影時に縦向きに撮影したか、横向きかの情報を画像データに記録します。その情報をもとに、画像を表示した際は、撮影した向きで表示します。
また、付属のソフト「Photo Loader」(114ページ)でパソコンに画像を取り込むとき、「Photo Loader」の設定で「回転情報をもとに画像を縦横変換する」の項目を「縦横変換する」にしておくと、縦向きで撮影した画像は縦向きのファイルとして保存されます。



重要!
- 【十字コントローラ】を左右に倒し続けることによる画像の早送り再生中、9画面表示による再生中、または各メニューの画像選択画面を表示しているときは、画像はすべて横向きに表示されます。
- 撮影時に縦横変換センサーを働かせるために以下の点をご注意ください。
  - デジタルカメラを静止させて撮影してください。デジタルカメラを移動しながら撮影すると、センサーが誤作動する場合があります。
  - 縦位置で撮影する場合は、できるだけデジタルカメラを90°立てて撮影してください。傾けた状態で撮影すると、センサーが誤作動する場合があります(90°立てた状態から20°以内を目安としてください)。



  - デジタルカメラを前後に寝かせて撮影すると、90°立てて撮影していてもセンサーが誤作動する場合があります。カメラを寝かせないようにして撮影してください(60°寝かせた状態までを目安としてください)。



  - ムービー撮影には縦横変換センサーは対応しておりません。

応用撮影

本機は、さまざまな機能の切り替えにより、多彩な応用撮影ができます。

1枚ずつ撮影する(1枚撮影モード)

【シャッター】を押すと、撮影された画像が1枚ずつメモリーカードに保存されます。

1. 【ドライブモードダイヤル】を[□](1枚撮影)に合わせます。

2. RECモードにします。

3. 【シャッター】を押して撮影します。

重要!
- 以下のような条件では、1枚撮影するごとに"しばらくお待ち下さい"と表示した後、画像がメモリーカードに保存されます。
  - 画質をTIFF形式(非圧縮)に設定時(81ページ)
  - ムービー撮影、パノラマ撮影時(78、79ページ)
  - ベストショット撮影で一部のシーンを選択したとき(66ページ)
  - コンパクトフラッシュカード使用時にバッテリー残量表示が になったとき(31ページ)
  - マイクロドライブ用時にバッテリー残量表示が になったとき(31ページ)

最後に撮影した画像を確認する

撮影した画像を見るときは、通常PLAYモード(93ページ)に切り替える必要がありますが、RECモードでも最後に撮影した画像を見ることができます。

1. 【PREVIEW】を押します。

最後に撮影した画像が、簡易画像で表示されます。
- ムービーモードで撮影した画像は、最後のコマが表示されます。
- 再度【PREVIEW】を押すと、簡易画像が表示される前の状態に戻ります。
- 電源を入れた直後やPLAYモードからRECモードに戻った直後は、【PREVIEW】を押しても最後に撮影した画像を見ることはできません。

最後に撮影した画像を消去する

撮影した画像を消去するときは、通常PLAYモード(93ページ)に切り替える必要がありますが、RECモードでも最後に撮影した画像を消去することができます。

重要!
- 一度消去してしまった撮影内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要な画像かどうかをよく確かめてから行ってください。

1. 【PREVIEW】を押して、簡易画像を表示させます。

2. 【AE-L 】を押します。

3. "はい"を選びます。
- 消去を中止する場合は"いいえ"を選びます。

4. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- 最後に撮影した画像が消去されます。

フラッシュを使って撮影する

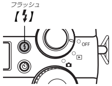
内蔵フラッシュを使って、さまざまなフラッシュ撮影ができます。

フラッシュモードを切り替える

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方式を切り替えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【⚡】を押してフラッシュモードを選びます。



フラッシュモード表示

- 【⚡】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方式が表示され、切り替わります。

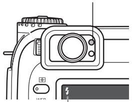
表示なし（自動発光）	：	被写体の明るさに合わせて自動的に発光します。
⚡（強制発光）	：	被写体の明るさに関係なく強制的に発光します。
（発光禁止）	：	被写体の明るさに関係なく発光しません。
（赤目軽減）	：	プリ発光してから再度発光することで、フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。 被写体の明るさに合わせて自動発光します。

重要!
- 露出モードがフルオートモード（71ページ）のときは、フラッシュの発光方式は自動発光となり、切り替えることができません。
- 露出モードがベストショットモード（66ページ）のときは、フラッシュの発光方式は各々のシーンで決められた方式になります。この場合、上記操作で発光方式を切り替えることはできますが、シーンを切り替えたり、電源を入れ直すと、決められた方式に戻ります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や【フラッシュチャージランプ】で確認できます。

【フラッシュチャージランプ】
オレンジ点滅：フラッシュ充電中
オレンジ点灯：フラッシュ発光予告



【液晶モニター】
フラッシュ発光時は ⚡ が表示されます。

フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "フラッシュ光量"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

強　：強く光ります。
標準：標準です。
弱　：弱く光ります。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

シンクロスピードを変える

フラッシュ撮影時のシャッター速度を切り替えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "シンクロスピード"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

速い：1/125秒でシャッターが切れます。室内で動き回る子供を撮影するときなどに使用します。手ぶれの影響を減らすこともできます（ハイスピードシンクロ撮影）。
標準：1/60秒でシャッターが切れます。
遅い：1/30秒でシャッターが切れます。背景を明るくしたいときなどに使用します（スローシンクロ撮影）。ただし、手ぶれの影響が出てくる恐れがありますので、注意が必要となります。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

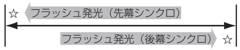
参考
- Sモード（シャッター速度優先AE）やMモード（マニュアル露出）で撮影したときは、設定したシャッター速度を優先するため、上記の設定は無効となります。

フラッシュ設定を変える（先幕／後幕シンクロ撮影）

フラッシュ撮影時のフラッシュ発光のタイミングを切り替えることにより、光跡の方向をコントロールして撮影することができます。

■先幕／後幕シンクロ撮影とは

先幕シンクロ撮影とは、シャッターを開いた直後にフラッシュを発光することにより、動く被写体の前方に光跡や残像を写し込む撮影をいいます。また、後幕シンクロ撮影とは、シャッターを閉じる直前にフラッシュを発光することにより、動く被写体の後方に光跡や残像を写し込む撮影をいいます。



例1：夜道を走っている車を先幕シンクロで撮影すると
最初にフラッシュにより車が写り、続けて車のライトが写るため、車の前方にライトの筋が伸びた画像になります。

例2：夜道を走っている車を後幕シンクロで撮影すると
最初に車のライトが写り、続けてフラッシュにより車が写るため、車の後方にライトの筋が伸びた画像になります。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "フラッシュ設定"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

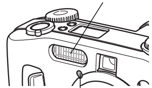
先幕シンクロ：シャッターを開いた直後にフラッシュを発光します。
後幕シンクロ：シャッターが閉じる直前にフラッシュを発光します。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ発光部】や【調光センサー】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。

【フラッシュ発光部】



【調光センサー】

- フラッシュによる撮影距離は下記の通りです。この範囲外の被写体に対しては適切な効果が得られません。

約0.5m～約3.5m　※絞り開放時

- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件（電池の種類、状態や温度等）により異なります。

数秒～40秒程度

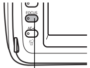
- 連続撮影モード、AEB撮影モード、ムービーモードの場合はフラッシュは発光しません。このとき（発光禁止）が表示されます（76、77、79ページ）。
- 電池が消耗すると、フラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき（発光禁止）が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに新しい電池と交換してください。
- （赤目軽減モード）で被写体がカメラの方に視線を向けていない場合や被写体までの距離が遠い場合には赤目軽減効果が得られないことがあります。
- フラッシュを使用した場合は、ホワイトバランスが固定されるため、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、マルチエリアオートフォーカス、スポットオートフォーカス、マニュアルフォーカス、無限遠、マクロの5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. RECモードにします。

2. 【FOCUS】を押し続けます。



3. 【セレクトダイヤル】を回してフォーカスモードを選び、【FOCUS】から手を離します。

	マルチエリアオートフォーカス	54ページ
	スポットオートフォーカス	55ページ
MF	マニュアルフォーカス	56ページ
∞	無限遠	56ページ
	マクロ	57ページ

自動でピントを合わせる（マルチエリアオートフォーカス）

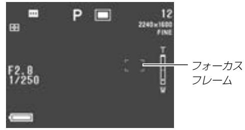
マルチエリアオートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。シャッターを半押しすると、3つの測距点の中で距離が一番近い被写体にピントを合わせます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

範囲：約30cm ～ ∞

1. フォーカスモードを“”に切り替えます。

2. ピントを合わせたい被写体にカメラを向け、【シャッター】を半押しします。

- 【シャッター】を半押しすると、被写体までの距離が一番近いフォーカスエリアとして選択された【フォーカスフレーム】が点灯します。



- 【動作確認用／カードアクセスランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。

状況	動作確認用／カードアクセスランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	赤点灯	赤点灯

3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

フォーカスエリアを指定する（スポットオートフォーカス）

撮影したい構図で、9つの【フォーカスフレーム】の中からフォーカスエリアを指定して、ピント合わせを行うことができます。

1. フォーカスモードを“”に切り替えます。

2. 撮影する構図にレンズを向けます。

3. 【FOCUS】を押したまま【十字コントローラ】を上下左右に倒して、被写体をとらえる位置にある【フォーカスフレーム】の上に「＋」を移動します。

- 【フォーカスフレーム】選択中は、「＋」が表示されます。

4. 【FOCUS】から指を離します。

- 選択した【フォーカスフレーム】がフォーカスエリアとして指定されます。

重要!
- ベストショットモードで【フレーム】が表示されているときは、フォーカスエリアを指定することはできません（69ページ）。
- 【フォーカスフレーム】の位置は、オートフォーカスのエリア指定以外にも、フォーカスエリアの拡大や、中央重点測光／スポット測光での測光を行うエリアと連動します（58、60ページ）。
- 【動作確認用／カードアクセスランプ】／【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはマルチエリアオートフォーカスモードと同じです。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカスでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約6cm～∞
3倍	約20cm～∞

1. フォーカスモードを“MF”に切り替えます。

2. 【液晶モニター】で確認しながら、【十字コントローラ】によりピントを合わせます。

【十字コントローラ】を上に倒す：遠い側にピントを合わせる
【十字コントローラ】を下に倒す：近い側にピントを合わせる

3. 【シャッター】を押して撮影します。

- マニュアルフォーカスでもスポットオートフォーカスと同じように、【フォーカスフレーム】の位置を変更することができます。

遠くを撮影する（無限遠）

無限遠では ∞（無限遠）付近で自動的にピントを合わせることができます。景色など遠景を撮影するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き、自動的にピント調整を始めます。

1. フォーカスモードを“∞”に切り替えます。

2. 撮影します。

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはスポットオートフォーカスモード（55ページ）と同じです。
- 【動作確認用／カードアクセスランプ】／【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはマルチエリアオートフォーカスモードと同じです。

近くを撮影する(マクロ)

マクロでは近距離で自動的にピントを合わせることができます。近くのものを撮影(接写)するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約6cm〜約50cm
2倍	約9cm〜約50cm
3倍	約20cm〜約50cm

重要! • ピントを合わせることができる範囲の数値は、レンズ前面のプロテクタから被写体までの距離を示しています。

1. フォーカスモードを“”に切り替えます。

2. 撮影します。

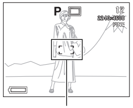
- ピントの合わせかた、撮影のしかたはスポットオートフォーカスと同じです。
- 【動作確認用/カードアクセスランプ】/【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはマルチエリアオートフォーカスモードと同じです。

フォーカスロック

スポットオートフォーカス([・])、無限遠(∞)、マクロ()撮影において、フォーカスエリアを指定しても、撮影したい構図と【フォーカスフレーム】がうまく合わない場合には、フォーカスロックを使います。

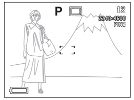
1. ピントを合わせたい被写体を【液晶モニター】で見ながら、【シャッター】を半押しします。

- ピントが合うと【フォーカスフレーム】が緑色点灯します。



【フォーカスフレーム】

2. 【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。



3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考 • フォーカスロックと同時に露出もロックされます。

フォーカスエリアを拡大する

すべてのフォーカスモードにおいて、ピントを合わせるときにフォーカスエリアを拡大して表示することができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “フォーカス拡大”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

入:フォーカスエリアを拡大します。
切:フォーカスエリアを拡大しません。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

参考
- マルチエリアオートフォーカス([▪▪▪])、スポットオートフォーカス([・])、無限遠(∞)、マクロ()撮影時は、フォーカス拡大を“入”に設定すると、【シャッター】を半押しした場合に、フォーカスエリアを拡大表示します。
- マニュアルフォーカス(MF)撮影時は、フォーカス拡大を“入”に設定すると、常にフォーカスエリアを拡大表示します。

手ぶれ警告表示について

以下の条件がすべて重なると、(手ぶれ警告表示)が【液晶モニター】に表示されます。

- 【液晶モニター】がオンになっている
- フラッシュ発光禁止になっている
- シャッター速度が遅い

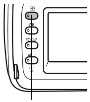
重要! • (手ぶれ警告表示)が表示された場合は、三脚や別売のシャッターレリーズ(WR-3C)を併用するか、露出の方法を変更してください。

測光方式を変える

測光方式の変更ができます。

1. RECモードにします。

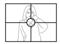
2. 【⊡】を押し続けます。



3. 【セレクトダイヤル】を回して設定内容を選び、【⊡】から手を離します。

⊡ マルチ(マルチパターン):

画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。様々なシーンで失敗の少ない露出が得られます。



⊙ 中央重点:

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。

[・] スポット:

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

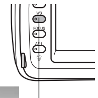
参考 • 測光方式が中央重点/スポットのときは、測光を行うエリアは指定された【フォーカスフレーム】の位置と連動します(55ページ)。

ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって、色味が異なっています。ホワイトバランスを被写体に当たる光源に合わせて設定すると、被写体を自然な色合いで撮影できるように、白を基準に色味が調整されます。

1. RECモードにします。

2. 【WB】を押し続けます。



3. **【セレクトダイヤル】を回して設定内容を選び、【WB】から手を離します。**

AWB（オート）：自動的にホワイトバランスを調整します。
（太陽光）：屋外での撮影時
（日陰）　：日陰で青みがかるとき
（電球）　：電球下で赤みがかるとき
（蛍光灯）：蛍光灯下で緑がかるとき
MWB（マニュアル）：現在の光源に合わせて手動で設定します。「マニュアルホワイトバランスの設定」を参照ください。

マニュアルホワイトバランスの設定

ホワイトバランスの"オート"では光源によって自動調整の処理に時間がかかったり、調整できる範囲（色温度）に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定は、白い紙などを画面に一杯に写した状態で行ってください。

1. **RECモードにします。**

2. **【WB】を押したまま【セレクトダイヤル】を回して"MWB"（マニュアル）を選びます。**

- 【液晶モニター】には、前回調整したバランスで被写体が表示されます。この状態で良いときは【WB】から指を離します。

3. **画面全体に白い紙などを写した状態で【十字コントローラ】をセンター方向に押します。**

- 【WB】から指を離すと、撮影ができる画面に戻ります。
- 暗い所や色の濃いものでホワイトバランスを調整すると時間がかかります。

AEロック（露出固定）撮影

Mモード（マニュアル露出）以外の露出モードでの撮影では、【シャッター】を半押しすると露出は固定されますが、それとは独立して露出を固定することができます。下記のような条件のとき、あらかじめ露出を固定した後、構図を決めたり、ピント合わせを行うときに使用します。

– 露出を合わせたい被写体とオートフォーカスを使ってピントを合わせたい被写体が一致しないとき
– フラッシュ撮影において、フラッシュを発光する前の露出で撮影したいとき（シンクロ撮影）

1. **RECモードにします。**

2. **露出を合わせたい被写体にカメラを向けます。**

3. **【AE-L】を押し続けます。**

- 露出（シャッター速度と絞り値）が固定されます。
- 【AE-L】から指を離すと、露出固定は解除されます。

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

参考 • 【シャッター】を半押しした状態で【AE-L】から指を離しても、露出は固定されたままになります。

露出を補正する

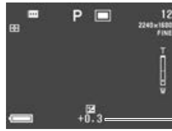
本機は、露出モードがPモード、Aモード、Sモード、ベストショットモードの場合、被写体の明るさに応じて、露出値（EV値）を下記の範囲で手動で補正することができます。一般的に白い被写体はプラス補正が、黒い被写体はマイナス補正が必要となります。

露出補正値：－2EV ～ ＋2EV
補正単位　：1/3EV

1. **露出モードをPモード、Aモード、Sモード、ベストショットモードのいずれかにします（66、71ページ）。**

2. **【十字コントローラ】を左右に倒して露出補正（EVシフト）します。**

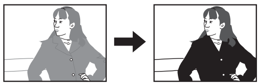
- 【液晶モニター】と【コントロールパネル】に露出補正値が表示されます。



露出補正表示

【十字コントローラ】を右に倒す
：＋方向に補正されます。白い物の撮影や明るい景色の撮影のときにプラス補正します。

【十字コントローラ】を左に倒す
：－方向に補正されます。黒い物の撮影や暗い景色の撮影のときにマイナス補正します。



- 露出補正値をリセットする場合は、補正値が"0"になるように操作して、を消してください。
- パノラマモードでは1枚目を撮影したときに露出補正値が固定されます（78ページ）。

3. **適切な明るさになったら【シャッター】を押して撮影します。**

重要！ • 測光連動範囲外（極端に明るいか暗い被写体）は、露出補正はできません。

ヒストグラムを活用する

【DISP】を押して【液晶モニター】上にヒストグラムを表示させることにより、露出をチェックしながら撮影することができます（23ページ）。

ヒストグラム（輝度成分分布表）とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために充分な画像のディテールが画像のシャドウ（左側）、中間調（中央部分）、ハイライト（右側）に含まれているかどうかを確認することができます。
もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、露出値（EV値）を補正してから撮影することをおすすめします（62ページ）。

重要！
- フラッシュ撮影やマルチ測光方式による撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
- 連続撮影、AEB撮影時は、2枚目以降はヒストグラムは表示されません（76、77ページ）。
- ムービー撮影時は、ヒストグラムは表示されません（79ページ）。

デジタルズームを使って撮影する

デジタルズーム機能により、光学ズームが最も望遠になった(3倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

倍率：3〜9.6倍(光学ズーム併用)

1. RECモードにします。

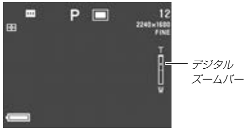
2. 【MENU】を押します。

3. "デジタルズーム"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. "入"を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- "切"を選ぶと、デジタルズームは働きません。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

6. 【ズームレバー】を[♠](望遠)／🔍側に倒して、ズームの倍率を変えます。
- 【ズームレバー】を操作して光学ズームが最も望遠になると、いったんズーム動作は停止します。その後、【ズームレバー】を[♠](望遠)／🔍側に倒すと、デジタルズームに切り替わります。



7. 【シャッター】を押して撮影します。

さまざまなシーンを選んで撮る(ベストショットモード)

デジタルカメラに内蔵した5種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

1. RECモードにします。

2. 【露出モードダイヤル】を[BS](ベストショット)に合わせます。
- シーンのサンプル画像が表示されます。

3. 【セレクトダイヤル】を回すか【十字コントローラ】を左右に倒して、撮影したいシーンを表示させます。

4. 【シャッター】を押すか【十字コントローラ】をセンター方向に押して、撮影したいシーンを決定します。

5. 【シャッター】を押して撮影します。

参考
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
- 被写体の条件によっては、充分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの各種設定内容は変更することができますが、シーンを切り替えたり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- 【ドライブモードダイヤル】を[🎥](ムービー)、[▭](パノラマ)に合わせているときは、フルオートのムービー撮影、パノラマ撮影となります(78、79ページ)。

撮影したいシーンをCD-ROMからコピーする(ベストショットライブラリ)

付属のCD-ROMに記録されているシーンのファイル(100種類のシーン)をメモリーカードにコピーして、ベストショットモードで呼び出すことができます。
- シーンの種類については、CD-ROMに内蔵されているベストショットのライブラリー覧をご覧ください(68ページ)。

1. メモリーカードを次のどちらかの方法でパソコンに接続します。
(1)デジタルカメラのUSB端子を使って接続する(114ページ)。
(2)パソコンに直接接続する(115ページ)。
- シーンのファイルはメモリーカード内の「Scene」フォルダに登録しますので、メモリーカードは必ず「Scene」フォルダが作成されているものを使用してください。
- 「Scene」フォルダは、本機にメモリーカードを差し込んで、最初に【電源／ファンクションスイッチ】を"📷"(REC)または"▶"(PLAY)に合わせたときに自動的に作成されます。

2. 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
- Windowsの場合は、CD-ROMメニューが起動します。

3. Windowsを使用する場合は、次のように操作します。

① CD-ROMメニューの左側の項目から「BEST SHOT」ボタンをクリックし、右側の選択肢から「一覧を見る」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。
- Webブラウザが起動し、ベストショットのライブラリー覧が表示されますので、使いたいシーンのファイル名を確認してください。

② CD-ROMメニューの右側の選択肢から「フォルダを開く」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。
- ベストショットライブラリファイルの格納フォルダが開きます。

③ 同様にCD-ROMメニューの右側の選択肢から「カメラを開く」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。
- カメラ(メモリーカード)の「Scene」フォルダが開きます。

④ 登録したいシーンファイルをメモリーカードの「Scene」フォルダにコピーします。
- シーンファイルは、ファイル名の順番に登録されます。

4. Macintoshを使用する場合は、次のように操作します。

① 「CASIO」→「BestShot Library」→「QV4000」とフォルダを開き、「一覧表(日本語版)」ファイルをダブルクリックします。
- Webブラウザが起動し、ベストショットのライブラリー覧が表示されますので、使いたいシーンのファイル名を確認してください。

② 上記フォルダ内の「日本語版」フォルダをダブルクリックします。
- ベストショットライブラリファイルの格納フォルダが開きます。

③ 「名称未設定」→「Scene」フォルダとダブルクリックします。
- カメラ(メモリーカード)の「Scene」フォルダが開きます。

④ 登録したいシーンファイルをメモリーカードの「Scene」フォルダにコピーします。
- シーンファイルは、ファイル名の順番に登録されます。

5. メモリーカードをデジタルカメラに入れます。

6. ベストショットモードのシーン選択範囲を「内蔵+CF」または「CF」に設定します(71ページ)。

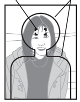
7. 66ページと同じ操作により、コピーしたシーンを選び撮影します。

重要!
- デジタルカメラでは、本機内蔵のシーンのあとに「CD-ROMからコピーしたシーン」「カスタム登録したシーン」の順番でシーンが登録されます。
- メモリーカードをフォーマット(36ページ)すると、ベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいますので、その場合は必要に応じて再度シーンファイルをコピーしてください。

参考
- CD-ROMからコピーしたシーンを消去したい場合は、パソコンを使ってメモリーカードの「Scene」フォルダ内から消去したいシーンのファイルを削除してください(117ページ)。

■フレームについて

選んだシーンによっては【液晶モニター】に【フレーム】が表示されます。フレームに被写体を合わせることでバランスのよい構図で撮影することができます。【フォーカスフレーム】もシーンに合った位置に表示されます。



例:バストアップを写します

重要!
- 【液晶モニター】に人型の【フレーム】が表示されるシーンで撮影しているときは、フォーカスエリアを拡大することはできません(58ページ)。

撮影したいシーンを登録する(カスタム登録)

今まで撮影した画像の設定内容をベストショットモードに読み込んで、呼び出すことができます。呼び出した画像の設定内容と同じ設定で撮影することができます。

重要!
- カスタム登録したシーンで撮影する場合は、ベストショットモードのシーン選択範囲を「内蔵+CF」または「CF」に設定する必要があります(71ページ)。

1. RECモードにします。

2. 【露出モードダイヤル】を[BS](ベストショット)に合わせます。
- シーンのサンプル画像が表示されます。

3. 【⏲】を押します。

4. 【セレクトダイヤル】を回すか【十字コントローラ】を左右に倒して、読む込む画像を選びます。

5. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- 登録が完了します。

6. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- 撮影できる状態になります。以降、66ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。

参考
- 登録される設定内容は下記の通りです。
  フォーカスモード、EVシフト、フィルター、測光方式、ホワイトバランス、色強調、フラッシュ光量、シャープネス、彩度、コントラスト、フラッシュモード、フラッシュ設定、シンクロスピード、デジタルズーム
- QV-4000で撮影された画像からのみ設定内容を読み取ることができます。
- 登録可能件数は最大250件(付属のCD-ROMからメモリーカードにコピーした画像を含む)となります。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- カスタム登録したシーンのファイル名は「U4000nnn.jpe(n=0~9)」となります。
- カスタム登録したシーンを消去したい場合は、パソコンを使ってメモリーカードの「Scene」フォルダ内から消去したいシーンのファイルを削除してください(117ページ)。

ベストショットモードのシーン選択範囲を設定する

ベストショットモードで使うシーンの選択範囲を変えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "ベストショット設定"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

内蔵+CF:本機内蔵のシーンとメモリーカードに登録されているシーンを選択可能
内蔵　　:本機内蔵のシーンのみ選択可能
CF　　　:メモリーカードに登録されているシーンのみ選択可能

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

参考
- メモリーカードへのシーンの登録については67ページをご覧ください。
- メモリーカードにベストショットモード用のシーンファイルやカスタムシーンが登録されていないときは「内蔵+CF」や「CF」を選んでも、本機内蔵のシーンから選択されます。

露出の方法を変える

撮影時の絞りとシャッター速度の決定方法(露出モード)は、【露出モードダイヤル】により次のように切り替えることができます。

[A]モード:フルオート
Pモード　:プログラムAE
Aモード　:絞り優先AE
Sモード　:シャッター速度優先AE
Mモード　:マニュアル露出

フルオート

[A]モード(フルオート)では被写体の明るさや撮影環境に応じて、シャッター速度や絞り値、フラッシュ発光などのすべての撮影条件が自動的に調整されます。

1. 【露出モードダイヤル】を[A](フルオート)に合わせます。

2. RECモードにします。

3. 【シャッター】を押して撮影します。

参考
- フルオート撮影の場合、自動的に設定される撮影条件がいくつかあります。詳しくは「フルオートモードの撮影条件」(126ページ)を参照してください。

プログラムAE

Pモード(プログラムAE)では測光方式などの撮影条件をもとに、被写体の明るさに応じてシャッター速度と絞り値が自動的に調整されます。なお、フラッシュの発光方式や測光方式などの撮影条件は変更することができます。

1. 【露出モードダイヤル】を[P](プログラム)に合わせます。

2. RECモードにします。

3. 必要に応じて撮影条件を設定します(80ページ)。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

■プログラムAEとフルオートの違いについて

プログラムAEとフルオートは、共にシャッター速度と絞り値を自動的に調整しますが、以下の操作が可能かどうかが異なります。

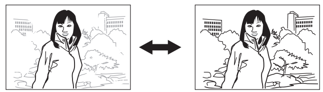
○:操作可、×:操作不可

機　能	プログラムAE	フルオート
【⚡】によるフラッシュの強制発光／発光禁止／赤目軽減切替え	○	×
【十字コントローラ】による露出補正(EVシフト)	○	×
【測光】による測光方式の設定	○	×
【WB】によるホワイトバランスの設定	○	×
【FOCUS】によるフォーカス方式の設定	○	×
【AE-L 🗑】によるAEロック(露出固定)	○	×
【MENU】によるメニュー画面の表示	○	×
【DISP】による液晶モニター表示切替え	4パターン	2パターン

絞り優先AE

Aモード(絞り優先AE)では任意の絞りに固定して撮影することができます。絞りを開けるとピントが合う範囲が狭くなり、逆に絞り込むとピントの合う範囲が広くなります。シャッター速度は自動的に調整されます。

絞りを開ける　　　絞り込む



- 設定できる絞り

絞り値	開ける←→絞る
	F2.0・F2.3・F2.8・F4.0・F5.6・F8.0
明るさ	明るい←→暗い
ピント	浅い←→深い

1.【露出モードダイヤル】を[A](絞り優先)に合わせます。

2. RECモードにします。

3.【セレクトダイヤル】を回して絞り値を指定します。

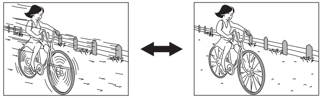
4.【シャッター】を押して撮影します。

重要! • 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときは絞りを適正な値に変更してください。

シャッター速度優先AE

Sモード(シャッター速度優先AE)では任意のシャッター速度に固定して撮影することができます。被写体の動きに応じたシャッター速度が設定できます。絞りは自動的に調整されます。

遅い(1/30)　　速い(1/1000)



• 設定できるシャッター速度

シャッター速度	遅い ←→ 速い
	BULB(バルブ)、60秒 ←→ 1/1000秒
明るさ	明るい ←→ 暗い
動　き	流れる ←→ 止まる

1.【露出モードダイヤル】を[S](シャッター速度優先)に合わせます。

2. RECモードにします。

3.【セレクトダイヤル】を回してシャッター速度を指定します。

4.【シャッター】を押して撮影します。

重要!
• 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときはシャッター速度を適正な値に変更してください。
• "BULB"に設定している場合は【シャッター】を押し込んでいる間露光し、【シャッター】を離すと露光を終了します。手ぶれ防止のためにシャッターレリーズ(別売品)の使用をおすすめします(87ページ)。
• "BULB"に設定している場合のシャッター速度は最長60 秒です。
• CCDの特性上、シャッター速度が遅くなると撮影した画像にノイズが発生します。そのため、シャッター速度が1秒以上遅くなると、自動的にノイズ軽減処理を行っています。ただし、シャッター速度が遅くなるほど、ノイズは目立って発生します。また、ノイズ軽減処理のために撮影時間がシャッター速度の2倍になります。
• シャッター速度を1/8秒より遅くした場合は【液晶モニター】で見える明るさと撮影された画像の明るさが異なります。
• 実際に撮影したときのシャッター速度は、設定したシャッター速度より若干ずれた値となります。

マニュアル露出

Mモード(マニュアル露出)ではシャッター速度、絞り値を自由に設定して撮影することができます。

• 設定できるシャッター速度はシャッター速度優先AE時と同じです。
• 設定できる絞りは絞り優先AE時と同じです。

1.【露出モードダイヤル】を[M](マニュアル露出)に合わせます。

2. RECモードにします。

3.【十字コントローラ】を左右に倒してシャッター速度を指定し、【セレクトダイヤル】を回して絞り値を指定します。

4.【シャッター】を押して撮影します。

重要!
• 露出がオーバーまたはアンダー時には、【液晶モニター】にシャッター速度と絞り値がオレンジ色で表示されます。
• 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときはシャッター速度を適正な値に変更してください。
• "BULB"に設定している場合は【シャッター】を押し込んでいる間露光し、【シャッター】を離すと露光を終了します。手ぶれ防止のためにシャッターレリーズ(別売品)の使用をおすすめします(87ページ)。
• "BULB"に設定している場合のシャッター速度は最長60 秒です。
• CCDの特性上、シャッター速度が遅くなると撮影した画像にノイズが発生します。そのため、シャッター速度が1秒以上遅くなると、自動的にノイズ軽減処理を行っています。ただし、シャッター速度が遅くなるほど、ノイズは目立って発生します。また、ノイズ軽減処理のために撮影時間がシャッター速度の2倍になります。
• シャッター速度を1/8秒より遅くした場合は【液晶モニター】で見える明るさと撮影された画像の明るさが異なります。

連続して撮影する(連続撮影モード)

【シャッター】を押し続けている間、連続撮影ができます。

1.【ドライブモードダイヤル】を[ ](連続撮影)に合わせます。

2. RECモードにします。

3.【シャッター】を押して撮影します。

重要! • 次のような場合は、連続撮影はできません。
– シャッター速度が1秒以上のスローシャッター時
– シャッター速度を"BULB"に設定しているとき(73ページ)
– バッテリー残量表示が になったとき(31ページ)
– ベストショットモードのソフトフォーカスシーンで撮影時
– 撮影画質をTIFF形式(非圧縮)に設定しているとき(81ページ)

• 連続撮影ではフラッシュは発光禁止となります。
• 連続撮影では、セルフタイマーは使用できません。

AEB(段階露出)撮影

1回の撮影で露出値を変化させた画像を、3枚または5枚撮影することができます。
- 露出値のシフト量(補正量)は、±1/3EV、±1/2EV、±2/3EV、±1EVの4つの中から選ぶことができます。

AEB撮影条件を設定する

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "AEB設定"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. "EVシフト量"または"撮影枚数"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

5. それぞれの設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- EVシフト量
  適正露出(±0EV)を中心に、1/3、1/2、2/3、1
- 撮影枚数
  3枚、5枚

6. 【MENU】を押して設定を終了します。

参考
- 撮影枚数が3枚のときは、適正露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影を行います。
- 撮影枚数が5枚のときは、適正露出→マイナス補正(小)→プラス補正(小)→マイナス補正(大)→プラス補正(大)の順に撮影を行います。

AEB撮影を行う

1. 【ドライブモードダイヤル】を[AEB](段階露出)に合わせます。

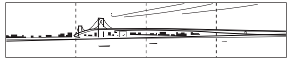
2. RECモードにします。
- 【液晶モニター】に"AEB"と表示されます。

3. 【シャッター】を押して撮影します。
- 【シャッター】を押している間、自動的に設定枚数の撮影を行います。
- 設定枚数の撮影が終了する前に【シャッター】から指を離すと、その時点までの撮影となります。

重要!
- 次のような場合は、AEB撮影はできません。
  - シャッター速度が1秒以上のスローシャッター時
  - シャッター速度を"BULB"に設定しているとき(73ページ)
  - バッテリー残量表示が [電池] になったとき(31ページ)
  - ベストショットモードのソフトフォーカスシーンで撮影時
  - 撮影画質をTIFF形式(非圧縮)に設定しているとき(81ページ)
- AEB撮影では、フラッシュは発光禁止となります。
- AEB撮影では、セルフタイマーは使用できません。

パノラマ画像を撮影する(パノラマモード)

複数の画像を画面上でつなぎ合わせながら、パノラマ画像を撮影することができます。

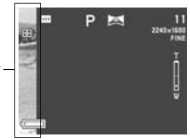


1. 【ドライブモードダイヤル】を[パノラマ](パノラマ)に合わせます。

2. RECモードにします。

3. 【シャッター】を押して撮影します。
- 1枚目に撮影した画像の右端が残像になって、画面左端に表示されます。

残像



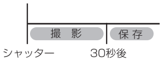
4. 2枚目以降は、前回の残像と今回の被写体が重なるよう合わせて、【シャッター】を押して撮影を続けます。

5. 必要な枚数を撮影したら【MENU】を押します。
- 最大10枚までの画像をつなぎ合わせることができます。

参考
- パノラマモード時の露出、ホワイトバランス、およびフォーカスは、1枚目を撮影したときの状態で固定されたまま、2枚目以降の撮影をします。

動画を撮影する(ムービーモード)

最大30 秒まで動画を撮影することができます。



- ファイル形式:AVI
  AVI形式は、Open DMLグループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。
  ただし、本機で音声データは記録できません。
- 画像のサイズ:320 × 240 pixels
- 動画のファイル容量
  ファイル容量:約300 KB /秒
  一度に撮影可能なムービーの最長時間:30 秒

1. 【ドライブモードダイヤル】を[ムービー](ムービー)に合わせます。

2. RECモードにします。

3. 撮影する被写体にカメラを向け【シャッター】を半押しします。

4. 【シャッター】を全押しします。
- 30秒間撮影が続きます。
- 30秒以内のムービーを撮影する場合は、もう一度【シャッター】を押すことで撮影を終えることができます。

重要!
- ムービーモードでは、フラッシュは発光しません。
- ムービーモードでは、フォーカスモードを切り替えることはできません(53ページ)。
- ムービーモードではデジタルズームができません(65ページ)。
- Windows 2000/98 でAVIファイルを見る場合は、付属のCD-ROMに収録されているQuickTimeをインストールしてください。
- Windows Meでは、MediaPlayerで再生できます。

各種撮影条件を設定する

RECモードにおいて、下記の撮影条件を設定することができます。

- 画像のサイズ/画質
- 色強調
- 色彩効果(フィルター)
- 彩度
- コントラスト
- シャープネス
- グリッド表示のオン/オフ
- 日付や時刻の写し込み(タイムスタンプ)
- 各種設定の記憶(モードメモリ)

画像のサイズと画質を変える

本機は、撮影する内容に応じて、画像のサイズと画質の切り替えができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "サイズ"または"画質"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

■サイズ／画質と撮影可能枚数

出力画素数(pixels)	撮影画質	ファイルサイズ	コンパクトフラッシュカード16MB	コンパクトフラッシュカード64MB	マイクロドライブ1GB
2240×1680	高精細 FINE	約1.8MB	約7枚	約30枚	約513枚
	標準 NORMAL	約1.2MB	約10枚	約43枚	約730枚
	エコノミー ECONOMY	約0.72MB	約15枚	約60枚	約1026枚
	非圧縮 TIFF	約11.025MB	約1枚	約5枚	約87枚
2256×1504(3：2)	高精細 FINE	約1.6MB	約8枚	約33枚	約566枚
	標準 NORMAL	約1.1MB	約12枚	約50枚	約842枚
	エコノミー ECONOMY	約0.66MB	約19枚	約77枚	約1314枚
	非圧縮 TIFF	約9.99MB	約1枚	約5枚	約97枚
1600×1200	高精細 FINE	約0.85MB	約15枚	約60枚	約1026枚
	標準 NORMAL	約0.6MB	約19枚	約77枚	約1314枚
	エコノミー ECONOMY	約0.35MB	約30枚	約124枚	約2053枚
	非圧縮 TIFF	約5.625MB	約2枚	約10枚	約171枚
1280×960	高精細 FINE	約0.5MB	約22枚	約88枚	約1493枚
	標準 NORMAL	約0.35MB	約30枚	約124枚	約2053枚
	エコノミー ECONOMY	約0.2MB	約51枚	約207枚	約3285枚
	非圧縮 TIFF	約3.6MB	約3枚	約15枚	約269枚
640×480	高精細 FINE	約0.15MB	約77枚	約311枚	約4693枚
	標準 NORMAL	約0.09MB	約101枚	約415枚	約6571枚
	エコノミー ECONOMY	約0.06MB	約154枚	約622枚	約8213枚
	非圧縮 TIFF	約0.9MB	約15枚	約62枚	約1026枚

重要!
- 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、記録枚数は変化します。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
- 撮影枚数はカメラ上には最大999枚までしか表示されませんが、撮影した枚数はカメラ内には確保されています。
- カードブラウザ(HTMLファイル)機能を"タイプ1～4"にしている場合(120ページ)、上記撮影可能枚数と異なることがあります。
- 画像をTIFF形式(非圧縮)で保存した場合、JPEG形式(圧縮)よりデータ保存に時間がかかります。
- 画質をTIFF形式に設定すると、カメラ上での再生用に、選択されているサイズのエコノミー画質のJPEG形式画像も同時に保存されます。
- TIFF形式の画像は、付属のソフト「Photo Loader」(114ページ)を使用してパソコンに転送することはできません。

色を強調する

撮影時に特定の色を強調することができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "色強調"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

切　　　：色の強調はしません。
赤強調　：赤色の成分が強調されます。
緑強調　：緑色の成分が強調されます。
青強調　：青色の成分が強調されます。
肌色強調：肌色の成分が強調されます。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

参考
- 色強調機能を使うと、色強調用のレンズフィルター(エンハンサーフィルター)を装着して撮影したような画像になります。
- 色強調とフィルター(83ページ)が設定されている場合は、フィルターが優先され、色強調が無効になります。

色を変える(フィルター)

フィルター機能を使用して撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "フィルター"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

参考
- フィルター機能を使うと、色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。
- 色強調(82ページ)とフィルターが設定されている場合はフィルターが優先され、色強調が無効になります。

彩度を変える

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "彩度"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

色が濃く　+2：色の鮮やかさが最も高くなります。
　　　　　+1：色の鮮やかさがやや高くなります。
　　　　　 0：標準の彩度になります。
　　　　　−1：色の鮮やかさがやや低くなります。
色が淡く　−2：色の鮮やかさが最も低くなります。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

コントラストを変える

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "コントラスト"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

くっきり　+2：明暗が最もくっきりします。
　　　　　+1：明暗がややくっきりします。
　　　　　 0：標準のコントラストになります。
　　　　　−1：明暗がやや平坦になります。
平　坦　　−2：明暗が最も平坦になります。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

シャープネスを変える

撮影される画像の鮮鋭度を設定できます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "シャープネス"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

くっきり　+2：鮮鋭度が最も高くなります。
　　　　　+1：鮮鋭度がやや高くなります。
　　　　　 0：標準の鮮鋭度になります。
　　　　　−1：鮮鋭度がやや低くなります。
柔らかく　−2：鮮鋭度が最も低くなります。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

グリッドを表示する

撮影時、【液晶モニター】に方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。

1. RECモードにします。
2. 【MENU】を押します。
3. “グリッド表示”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。
4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
   入：グリッドを表示します。
   切：グリッドは表示しません。
5. 【MENU】を押して設定を終了します。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

撮影時に画像の右下に日付や時刻を写し込むことができます。いったん画像に写し込まれた日付や時刻は消すことはできません。

1. RECモードにします。
2. 【MENU】を押します。
3. “タイムスタンプ”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。
4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押して設定します。

   例)2001年10月23日　午後1時25分
   切　：タイムスタンプは写し込まれません。
   2001/10/23　：年／月／日
   23 1:25pm　：日　時：分　午前／午後
   2001/10/23 1:25pm：年／月／日　時：分　午前／午後
5. 【MENU】を押して設定を終了します。

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入／切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

1. RECモードにします。
2. 【MENU】を押します。
3. “モードメモリ”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。
4. 設定したい機能を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。
5. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
   入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
   切：電源を切ったときに初期値に戻ります。
6. 【MENU】を押して設定を終了します。

●モードメモリで設定できる機能

機能	入	切(初期値)
フラッシュ	最後のモード	オート
ホワイトバランス		オート
測光方式		マルチ
フォーカス方式		スポット
デジタルズーム		入
EVシフト		補正なし

●モードメモリのリセット

左の操作4で“リセット”を選んだ後、【十字コントローラ】を右に倒して“はい”を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押すと、モードメモリの設定内容を初期状態に戻すことができます。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(124ページ)をご覧ください。

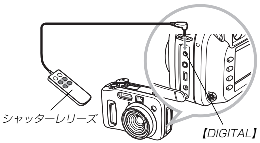
1. RECモードまたはPLAYモードにします。
2. 【MENU】を押します。
3. “リセット”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。
4. “はい”を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
   - リセットしない場合は“いいえ”を選びます。

シャッターレリーズを使って撮影する

本機は別売のシャッターレリーズ(WR-3C)を使って撮影することができます。シャッター速度が遅い場合や望遠での撮影で三脚を併用することで、手ぶれを防ぐことができます。詳しくはシャッターレリーズに付属の取扱説明書をご覧ください。

接続できるシャッターレリーズ：WR-3C(別売品)
ケーブル長：約1m

1. カメラの電源を切り、シャッターレリーズをカメラの【DIGITAL】(シャッターレリーズ用端子)に接続します。



2. RECモードにします。
3. 【MENU】を押します。
4. “レリーズ設定”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。
5. “入”を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
   - “切”を選ぶと、シャッターレリーズは使えません。
6. 【MENU】を押して設定を終了します。
7. シャッターレリーズにより撮影操作を行います。

参考
- シャッターレリーズで使用できるカメラ側のボタンは下記の通りです。
  【シャッター】の半押し／全押し、【ズームレバー】、【十字コントローラ】の左右操作

外部フラッシュを接続して撮影する

本機は市販の外部フラッシュを接続することができます。内蔵のフラッシュより大きなガイドナンバー(明るい)のフラッシュを使用することにより、内蔵のフラッシュの届かない遠くの被写体を照らすことができます。

内蔵フラッシュのガイドナンバー：6.5(ISO 100/m)

使用できる外部フラッシュの条件

下記の条件を備えた市販のフラッシュを使用することができます。

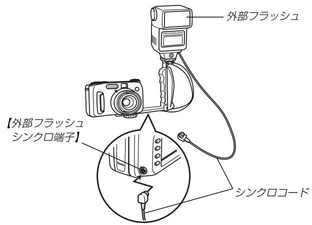
- 調光機能(AUTO機能)付き。
- 閃光時間が1/1000秒より短いもの。
- 照射角度が35mmフィルム換算で焦点距離33mmのレンズをカバーするもの。(ワイドコンバージョンレンズ非装着時)

重要!
- 閃光時間の長いものはフラッシュの性能が充分に発揮できない場合があります(リングフラッシュなど)。
- フラッシュによっては、デジタルカメラ本体と同等の絞り値とISO 感度に設定できない場合があります。この場合は設定値を近い値に設定し、外部フラッシュやデジタルカメラの絞りを調整し、試し撮りをして、適正な明るさになるように設定値を選択してください。

外部フラッシュの接続

重要!
- 外部フラッシュの取り付け、取り外しの際には、必ず外部フラッシュの電源とデジタルカメラの電源は切ってください。フラッシュが誤発光することがあります。

1. シンクロコードを【外部フラッシュシンクロ端子】に接続します。



- デジタルカメラに外部フラッシュを取り付ける場合は、市販の三脚穴に固定可能なグリップ付きブラケットをお買い求めください。

2. カメラの電源を入れ、カメラを次のように設定します。

露出モード：Mモード(マニュアル露出)

シャッター速度は1/60秒程度、絞りは用途によって設定してください。

- フラッシュの光が届かない部分をできるだけ明るく撮影したい場合は、デジタルカメラの絞りを開放(F2.0)に設定してください。

ホワイトバランス：太陽光

フラッシュモード：(発光禁止)

3. 外部フラッシュの電源を入れ、外部フラッシュ側の設定を、デジタルカメラで設定した絞り(F)値(72ページ)とデジタルカメラの感度(ISO100相当)に近い値に合わせます。

- 外部フラッシュのオート絞り(F)値やISO感度を本機の条件に近い設定をしても、撮影条件によっては適正な露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオート絞り(F)値かISO感度の値などを調整してください。または、デジタルカメラの絞りを調整してください。

重要!
- 外部フラッシュは【外部フラッシュシンクロ端子】に接続していると強制的に発光します。フラッシュを使用しないときは、シンクロコードを本機からはずすか、外部フラッシュの電源スイッチを切ってください。
- 外部フラッシュの発光量は外部フラッシュ側で決定されます。デジタルカメラでは調整できません。撮影後【液晶モニター】で確認した露出が思わしくない場合は、外部フラッシュやデジタルカメラの設定値を調節して、撮影しなおしてください。
- 近距離での撮影では露出がオーバーになる場合があります。外部フラッシュの絞りやISO感度を調整するか、デジタルカメラの絞りを調整するか、または内蔵フラッシュで撮影してください。
- フラッシュモードが(発光禁止)以外に設定されているときは内蔵フラッシュも発光します。
- デジタルカメラの表示している絞り(F)値は、光学ズームがワイド端(1倍)のときの値です。望遠側にするとレンズは多少暗くなります。光学ズーム使用時は必要に応じて外部フラッシュの絞りやISO感度を調整するか、デジタルカメラの絞りを調整してください。
- ズームフラッシュを使用される場合、フラッシュの照射角度は焦点距離33mm以下に設定することをおすすめします。

コンバージョンレンズ／クローズアップレンズやフィルターを取り付けて撮影する

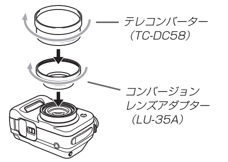
本機のレンズ部分にはネジきりがあり、別売のコンバージョンレンズアダプター(LU-35A)を利用することで、推奨のコンバージョンレンズ／クローズアップレンズや市販のフィルターを取り付けて撮影することができます。

コンバージョンレンズ／クローズアップレンズの取り付け

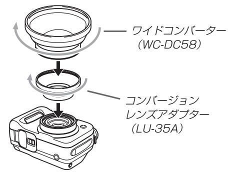
コンバージョンレンズを取り付けることにより、さらなる望遠撮影や広角撮影ができます。また、クローズアップレンズを取り付けることにより、より近接のマクロ撮影ができます。

重要!
- 推奨のコンバージョンレンズ／クローズアップレンズは、次のキヤノン(株)製の製品のみとなります。

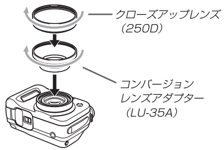
● 望遠撮影用
キヤノン（株）製テレコンバーター TC-DC58
焦点距離：デジタルカメラ本体の焦点距離の約1.5倍



● 広角撮影用
キヤノン（株）製ワイドコンバーター　WC-DC58
焦点距離：デジタルカメラ本体の焦点距離の約0.8倍



● マクロ撮影用
キヤノン（株）製クローズアップレンズ 250D（58mm）
撮影可能距離：マクロモードにて、クローズアップレンズ前面から被写体までの距離が約5cm～約14cmの撮影が可能（ズームを広角端にして使用した場合）。それ以外では約7cm～約14cm。



重要!
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを使用するときは必ず指定のコンバージョンレンズアダプター(LU-35A)を使用してください。コンバージョンレンズアダプターを使わないと、せり出したレンズがコンバージョンレンズ／クローズアップレンズに当たり故障の原因となります。
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを取り付けてもファインダー内の画角は変わりませんので、撮影するときは【液晶モニター】をお使いください。また、【ファインダー】を使うとファインダー内の一部にケラレ(光線がさえぎられることによる黒い影)が生じます。
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズ使用時は内蔵のフラッシュを使うとケラレ(光線がさえぎられることによる黒い影)が生じます。
- テレコンバーターはズームを広角側にして使用するとケラレ(光線がさえぎられることによる黒い影)が生じますので、望遠側でご使用ください。
- テレコンバーター使用時は手ぶれが発生しやすいので、必ず市販の三脚をご使用ください。
- ワイドコンバーターは性質上、画像に歪みを生じることがあります。ご注意ください。また、ワイドコンバーターはズームを広角端にしてお使いください。
- クローズアップレンズ使用時は、必ずフォーカスモードを(マクロモード)に切り替えてください(57ページ)。他のフォーカスモードではピントが合いません。

フィルターの取り付け

市販の口径φ58mmのフィルターを取り付けて撮影することができます。

重要!
- フィルターを使用するときは必ず指定のコンバージョンレンズアダプター(LU-35A)を使用してください。コンバージョンレンズアダプターを使わないと、せり出したレンズがフィルターに当たり故障の原因となります。
- フィルターによっては次のようなことがあります。ご確認のうえご購入ください。
  - 画面の周辺にケラレ(光線がさえぎられることによりできる黒い影)が生じる。
  - オートフォーカス、およびフラッシュの性能が十分に発揮できない。
  - 銀塩カメラと同様の効果が得られない。
- フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
- 市販のレンズフードを使用すると画面の周辺にケラレ(光線がさえぎられることによりできる黒い影)が生じます。

再生する

本機は【液晶モニター】を備えているので、記録されている内容を本機だけで確認することができます。

基本的な再生のしかた

記録されている画像を順次送ったり戻したりしながら見ることができます。

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を"▶"(PLAY)に合わせます。**
- PLAYモードになり、再生できる状態になります。

2. **【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、画像を送ります。**

参考
- 【十字コントローラ】を左右に倒し続けると、画像が速く送られます。
- 初めに表示される画像は簡易画像のため、粗い表示になっていますが、約2秒後に精細な画像が表示されます。ただし、他のデジタルカメラで撮影した画像については、精細な表示ができない画像もあります。

動画を再生する

ムービーモードで撮影した動画を再生することができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、ムービーモードで撮影した動画を表示させます。**

3. **【十字コントローラ】をセンター方向に押すと、動画が再生されます。**
- 他のキーでさまざまな操作ができます。
  【DISP】：全画面と1/4画面を切り替えます。
  【十字コントローラ】の左右：再生方向を切り替えます。
  【十字コントローラ】のセンター方向
  　：再生と一時停止を切り替えます。
  - 一時停止中に【十字コントローラ】を左右に倒すと、コマ送りができます。
  【MENU】：終了します。

パノラマ画像を再生する

パノラマモードで撮影した画像をスクロールして再生することができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、パノラマモードで撮影した画像を表示させます。**

3. **【十字コントローラ】をセンター方向に押すと、パノラマ画像が再生されます。**
- 再生中は他のキーでさまざまな操作ができます。
  【DISP】：全画面と縮小画面を切り替えます。
  【十字コントローラ】の左右
  　：スクロールの方向を切り替えます。
  【十字コントローラ】のセンター方向
  　：再生と一時停止を切り替えます。
  - 一時停止中に【十字コントローラ】を左右に倒すと、コマ送りができます。
  【MENU】：終了します。

画像を拡大して表示する

撮影した画像を3.2倍まで拡大して表示させることができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、拡大したい画像を表示させます。**

3. **【ズームレバー】を[♠](望遠)/🔍側に倒して、画像を拡大します。**

- 拡大中は他のキーでさまざまな操作ができます。
  【十字コントローラ】：上下左右にスクロールします。

4. **【十字コントローラ】以外のボタンを押すと、拡大表示は終了します。**

重要!
- 動画とパノラマ画像は拡大表示できません。

参考
- 通常表示（1倍表示）から【ズームレバー】を[♣♣♣](広角)/▦側に倒すと、9画面表示に切り替わります。

1つの画面に9つの画像を表示する

撮影した内容を9つまで同時に一覧表示させることができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【ズームレバー】を[♣♣♣](広角)/▦側に倒します。**
- 最初に表示していた画像を先頭に9つの画像が表示されます。

3. **【十字コントローラ】を左右に倒して、画像を見て行きます。**

1	2	3
4	5	6
7	8	9

→ ←

10	11	12
13	14	15
16	17	18

→ ←

19	20	21
22	23	24
25		

4. **【十字コントローラ】、【DISP】以外のボタンを押すと9画面表示は終了します。**

目当ての画像を素早く表示する

1. **9画面表示に切り替えます。**

2. **【DISP】を押します。**
- ⇱が表示されます。

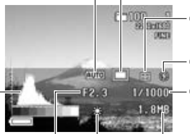
3. **【十字コントローラ】を上下左右に倒して⇱を目当ての画像に移動し、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。**
- 目当ての画像が1枚で表示されます。

撮影時のヒストグラムと画像情報を表示する

撮影した画像の撮影時のヒストグラムと情報を表示することができます。

1. PLAYモードにします。

2. 【DISP】を押して、ヒストグラムと画像情報を表示させます。



① ヒストグラム	撮影時の露出をチェックすることができます。 • フラッシュ撮影やマルチ測光方式による撮影など、撮影したときの状況によっては、実際に撮影したときの露出と異なる露出でヒストグラムが表示される場合があります。
② 露出モード	AUTO：フルオートモード BEST SHOT：ベストショットモード P：Pモード（プログラムＡＥ） A：Ａモード（絞り優先） S：Ｓモード（シャッター速度優先） M：Mモード（マニュアル露出）
③ ドライブモード	：１枚撮影モード ：連続撮影モード AEB：AEB（段階露出）撮影モード ：ムービー撮影モード ：パノラマ撮影モード
④ 測光方式	：マルチ測光 ：中央重点測光 ：スポット測光
⑤ フラッシュ発光状態	：フラッシュ発光した ：フラッシュ発光せず
⑥ 絞り	撮影時の絞り値
⑦ シャッター速度	撮影時のシャッター速度

⑧ ホワイトバランス	表示なし：オート ：太陽光 ：日陰 ：電球 ：蛍光灯 MWB：マニュアル
⑨ ファイルサイズ	ファイル容量

- 撮影時の情報が不明の場合は、"------"を表示します（ヒストグラムを除く）。

3. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、画像を切り替えることができます。
- 画像情報が表示されるまで、しばらく時間がかかります。

4. 【DISP】を押して、ヒストグラムと画像情報表示を終了します。

重要!
- 動画（93ページ）再生時には、ヒストグラムは表示されません。
- パノラマ画像（94ページ）再生時には、1枚目を撮影したときのヒストグラムが表示されます。

画像を自動的にページめくりさせる（スライドショー）

撮影した内容を自動的に次々とページめくりさせる機能（スライドショー）です。ページめくりの間隔を設定することもできます。

→ →

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "スライドショー"を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- スライドショーが始まります。
- ここで【MENU】を押すと5〜30秒の範囲でページめくりの間隔を指定できます。

4. 【MENU】以外のボタンを押すと、スライドショーが終了します。

重要!
- スライドショー中は、本機のオートパワーオフ機能（操作を行わないと自動的に電源が切れる機能）が働きません。このため電池で本機を使用しているときにスライドショーをしたまま放置してしまうと、確実に電池が消耗します。スライドショーを行った後は、必ずスライドショーを終了して電源を切るようにしてください。
- 画面の切り替り中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合はしばらくボタンを押し続けてください。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、設定した間隔より長くなる場合があります。

画像サイズを変える（リサイズ）

撮影した画像のサイズを、640×480pixlesのVGAサイズに変えることができます。
- VGAサイズの画像は、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像に最適です。

1. PLAYモードにします。

2. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、サイズを変えたい画像を表示させます。

3. 【MENU】を押します。

4. "リサイズ"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

5. "はい"を選び【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- リサイズを中止する場合は"いいえ"を選びます。

重要!
- リサイズした画像は最新ファイルとして保存されます。
- リサイズしても、リサイズする前の画像は残っています。
- 画像サイズが2256×1504（3:2）pixelsの画像は、640×427pixelsの画像にリサイズされます。
- 画像サイズが640×480pixels以下の画像はリサイズできません。
- ムービーモード、パノラマモードで撮影した画像、TIFF形式（非圧縮）の画像はリサイズできません。
- "メモリーがいっぱいです　不要な画像を消去してください"というメッセージが表示された場合はリサイズできません。

消去する

画像を消去する方法には次の4つの方法があります。

表示画像	：	表示されている画像を1画像ずつ消去する。
1画像単位	：	消したい画像を1画像ずつ選び、まとめて消去する。
フォルダ単位	：	フォルダごとに消去する。
全画像	：	すべての画像を消去する。

重要!
- 一度消去してしまった撮影内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要な画面かどうかをよく確かめてから行ってください。特に、全画像消去の操作では、撮影したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- すべての画像がメモリープロテクトされている状態では、実行できません。
- メモリープロテクトのかかった画像は消去できません。メモリープロテクトの解除（106ページ）を行ってから操作してください。

表示されている画像を消去する（ダイレクト消去）

表示されている画像を1画像ずつ消去することができます。

1. PLAYモードにします。

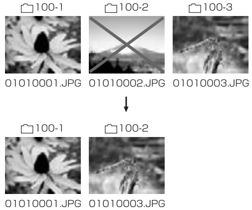
2. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、消去したい画像を表示させます。

3. 【AE-L 】を押します。

4. "はい"を選びます。
- 消去を中止する場合は"いいえ"を選びます。

5. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- パノラマモードで撮影された画像は、グループ単位で消去されます。

参考
- 1画像削除を行うごとに、ページの空きができないように自動的にページ詰めが行われます。ただし、画像のファイル名は変更されません。



1画像単位で消去する（選択画像消去）

消したい画像を1画像ずつ選び、まとめて消去することができます。

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "消去"→"選択画像"と選び、【十字コントローラ】を右に倒します（38ページ）。

4. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、消去したい画像を表示させます。

5. 【十字コントローラ】を上下に倒して、消したい画像に を表示させます。

- 複数枚まとめて消去する場合は手順4～5を繰り返します。

6. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
- パノラマ撮影した画像は、グループ単位で消去されます。

7. 「表示されている画像を消去する」（101ページ）の手順4～5と同じ操作をして消去します。

フォルダ単位で画像を消去する（フォルダ画像消去）

フォルダ内の画像をまとめて消去することができます。

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "消去"→"フォルダ画像"と選び、【十字コントローラ】を右に倒します（38ページ）。

4. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、消去したいフォルダを表示させます。

5. 【十字コントローラ】を上下に倒して、消したいフォルダに を表示させます。

- 各フォルダ内の最初の画像が表示されます。
- 複数のフォルダをまとめて消去する場合は手順4～5を繰り返します。

6. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

7. 「表示されている画像を消去する」（101ページ）の手順4～5と同じ操作をして消去します。

全画像を消去する

すべての画像を消去することができます。

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "消去"→"全画像"と選び、【十字コントローラ】を右に倒します（38ページ）。

4. 「表示されている画像を消去する」（101ページ）の手順4～5と同じ操作をして消去します。

画像の管理について

本機では画像の撮影や再生の他、画像プリント時の枚数指定等や画像の消去防止の設定ができます。

フォルダの分類について

本機はメモリーカード内に、フォルダ(ディレクトリ)を自動的に作成します。

メモリーカード内のフォルダについて

撮影した画像は月日を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900まで作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：100(連番)、7月19日撮影

月(2桁)
日(2桁)
100_0719
アンダーバー
連番(3桁)

各フォルダには最大250個の画像ファイルが登録でき、251枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。メモリーカードにはさまざまな制御用ファイルが記憶されていますが、画像ファイルは次の通りです。

例：11月7日の26番目に撮影した画像

月(2桁)
日(2桁)
11070026.JPG
拡張子(.JPG/.TIF/.AVI)
連番(4桁)

- メモリーカード内に保存できるフォルダ数、ファイル数はメモリーカードの容量や画質によって異なります。
- パノラマファイルは通常の画像ファイル数枚を1グループとして保存されています。
- メモリーカード内の詳しいディレクトリ構造に関しては「メモリーカード内のディレクトリ構造」(117ページ)をご覧ください。
- 他のカメラで撮影したり、パソコンから画像をコピーして1フォルダ中に251枚以上画像ファイルが存在する場合は250枚目までしか再生されません。ただし、画像を消去した場合251枚目以降の画像が繰り上がって表示されます。

撮影した画像の消去防止をする(メモリープロテクト)

大事な画像を誤って消去してしまうことを防止する機能(メモリープロテクト)がついています。メモリープロテクトされた画像は、消去の操作(101ページ)をしても消えることはありません。メモリープロテクトのかけかたには、1画像単位、フォルダ単位、全画像の3通りがあります。

1画像単位で消去防止する

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "プロテクト"→"選択画像"と選び、【十字コントローラ】を右に倒します(38ページ)。

4. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、メモリープロテクトしたい画像を表示させます。

5. 【十字コントローラ】を上下に倒して、消去防止したい画像に"[プロテクトマーク]"を表示させます。

- メモリープロテクトを解除する場合は[プロテクトマーク]を消してください。
- 他の画像についても設定を行う場合は手順4～5を繰り返してください。

6. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

フォルダ単位で消去防止する

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "プロテクト"→"フォルダ画像"と選び、【十字コントローラ】を右に倒します(38ページ)。

4. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、メモリープロテクトしたいフォルダを表示させます。

5. 【十字コントローラ】を上下に倒して、消去防止したいフォルダに[プロテクトマーク]を表示させます。

- メモリープロテクトを解除する場合は[プロテクトマーク]を消してください。
- 他のフォルダについても設定を行う場合は手順4～5を繰り返してください。

6. 【十字コントローラ】をセンター方向に押して、設定を終了します。

全画像を消去防止する

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

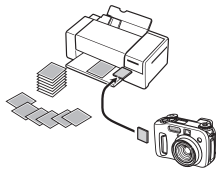
3. "プロテクト"→"全画像"と選び、【十字コントローラ】を右に倒します(38ページ)。

4. メモリープロテクトの設定を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。
オン：すべての画像をメモリープロテクトします。
オフ：すべての画像のメモリープロテクトを解除します。

DPOF(プリントオーダー)機能について

DPOF(Digital Printer Order Format)とはデジタルカメラで撮影した中からプリントしたい画像や枚数などの設定情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するためのフォーマットです。メモリーカードを通じてDPOF対応の家庭用プリンターやサービスラボでプリントすることができます。
本機では撮影された画像ファイル名などを意識することなく、【液晶モニター】で確認しながらプリントしたい画像の設定を行うことができます。

- 設定可能な内容
画像／枚数／日付



1画像単位で印刷の設定をする

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "DPOF"→"選択画像"と選び、【十字コントローラ】を右に倒します(38ページ)。

4. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、印刷したい画像を表示させます。

5. 印刷の設定を行います。

【十字コントローラ】を上下に倒す：
印刷する枚数が設定できます。[プリントマーク]を表示させた画像が印刷されます。
- 印刷を解除する場合は【十字コントローラ】を下に倒して、[プリントマーク]を消してください。

【DISP】：

日付の有無が設定できます。[日付アイコン]を表示させると日付入りで印刷されます。ただし、プリンターによっては日付を印刷できないものがあります。

- 他の画像についても設定を行う場合は手順4～5を繰り返してください。

6. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

フォルダ単位で印刷の設定をする

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “DPOF” → “フォルダ画像”と選び、【十字コントローラ】を右に倒します(38ページ)。

4. 【十字コントローラ】を左右に倒すか【セレクトダイヤル】を回して、印刷したいフォルダを表示させます。

5. 印刷の設定を行います。

- 「1画像単位で印刷の設定をする」(108ページ)の手順5と同じ操作をします。

6. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

全画像に印刷の設定をする

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “DPOF” → “全画像”と選び、【十字コントローラ】を右に倒します(38ページ)。

4. “設定する”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

- 印刷を解除する場合は、“解除する”を選んでください。

5. 印刷の設定を行います。

【十字コントローラ】を上下に倒す：

印刷する枚数が設定できます。

【DISP】：

日付の有無が設定できます。“オン”を表示させると日付入りで印刷されます。ただし、プリンターによっては日付を印刷できないものがあります。

6. 【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

PRINT Image Matchingについて

本機はPRINT Image Matchingに対応しています。PRINT Image Matching対応のプリンターを使用すれば、画像データに記録された撮影モードの情報などから、撮影状況に最適な画質でプリントされます。

PRINT Image Matching ™

※PRINT Image Matchingは、「デジタルカメラの色情報に関するPrint Command、PRINT Image Matching」に従った製品であることを示しています。

※PRINT Image Matchingの仕様書Version 1.0に対する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

その他の設定について

メニュー言語を切り替える

画面に表示されるメニューを日本語、英語、およびスペイン語の3つから選ぶことができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “Language”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

English ：画面のメニューが英語で表示されます。
日本語 ：画面のメニューが日本語で表示されます。
Español ：画面のメニューがスペイン語で表示されます。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

操作音のオンオフ

操作音のオンオフを切り替えることができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “操作音”を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

4. 設定内容を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。

入：操作音がでます。
切：操作音がでません。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

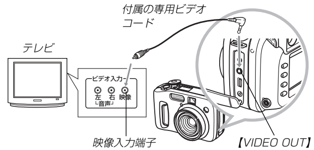
他の機器との接続

本機は、接続用の端子として【VIDEO OUT】(ビデオ出力端子)、【DIGITAL】(シャッターレリーズ用端子)、【USB】(USB接続端子)の3つを備えています。テレビやビデオ、パソコンなどさまざまな機器と接続して使用することができます。【DIGITAL】(シャッターレリーズ用端子)については、87ページをご覧ください。

重要!
- 接続は必ず本機と外部機器の電源を切った状態で行ってください。
- 接続する際は接続する外部機器の取扱説明書もあわせてお読みください。
- テレビやパソコンのCRTに同一の画像を表示して放置しておくことはおやめください。残像現象(画面焼け)をおこす場合があります。
- 本機ではケーブルを通じて他のカシオデジタルカメラや携帯電話などへ画像を送ることはできません。

テレビに画像を映し出す

本機で撮影した内容や撮影中の表示をテレビの画面に映すことができます。テレビの画面に映すには、本機と映像入力端子を備えたテレビを付属の専用ビデオコードで接続します。



1. 付属の専用ビデオコードで本機とテレビを接続します。

2. テレビの映像入力を「ビデオ入力」に切り替えます。

3. 以降、本機で再生や撮影の操作を行ってください。

重要!
- 【液晶モニター】に表示されるアイコンなどはそのままテレビ画面に表示されます。

ビデオ出力の方式を変更する場合

本機はビデオ出力の方式に合わせて、出力信号を変更することができます。ビデオ出力の方式は次の2種類です。

NTSC：日本やアメリカなどで使用している方式です。
PAL　：ヨーロッパなどで使用している方式です。

重要! • PALを選んだときはビデオ出力時に本機の【液晶モニター】は消灯します。

1. RECモードまたはPLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "ビデオ出力"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。

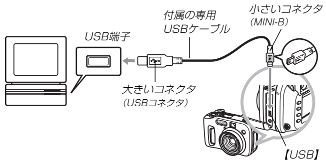
4. "NTSC"または"PAL"を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に設定します。

5. 【MENU】を押して設定を終了します。

パソコンで画像を活用する

USB端子を備えたパソコン（Windows／Macintosh）と本機の【USB】（USB接続端子）を付属の専用USBケーブルにより接続することで、付属のCD-ROMに収録の専用ソフト（Photo Loader）を使用して、本機の撮影内容をデジタルデータの状態で簡単にパソコンへ転送することができます。初めにUSBドライバをパソコンにインストールすれば、専用USBケーブルでパソコンと本機を接続するだけで、パソコン上の外部記憶装置として認識することができます。具体的な接続方法、USBドライバのインストール方法、動作環境については専用ソフト取扱説明書（インストール編）をお読みください。

■USB接続のしかた



- 専用USBケーブルをカメラに接続するときは、本機のUSB接続端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていないと、正常に動作しません。
- USBケーブルからは本機に電源は供給されません。
- パソコンとの通信を行う際、残り少ない電池で本機を使用しますと、画像データの通信中に電源が切れる可能性があります。パソコンとの通信には専用ACアダプター（別売品）をお使いください。
- USBケーブルは本機専用品です。他の市販USBケーブルや他のデジタルカメラ用に別売のUSBケーブルQC-1Uは使用できません。
- 通信中にケーブルを抜かないでください。データが破壊される恐れがあります。
- RECモード、PLAYモードのどちらでもUSBでの通信ができます。

■USB接続のはずしかた

WindowsMe/98の場合

USBケーブルをデジタルカメラからはずし、カメラの電源を切ります。

Windows2000の場合

パソコン画面上のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択します。その後、USBケーブルをデジタルカメラからはずし、カメラの電源を切ります。

Macintoshの場合

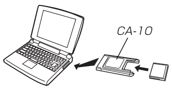
ファインダー上のカメラのドライブをゴミ箱に捨ててから、USBケーブルをデジタルカメラからはずし、カメラの電源を切ります。

- USBでの通信が終了したら、所定の手順でUSBケーブルを抜いてください。
- USBで通信をしている状態では本機の電源は切れません。USBケーブルを抜いた後に本機の電源を切ってください。

パソコンでメモリーカードを活用する

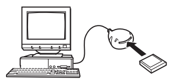
パソコンとの画像のやりとりをメモリーカードから直接行うことができます。また、付属のソフト（Photo Loader）を使用して、撮影内容をパソコンに自動的に保存することもできます。パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。

- コンパクトフラッシュカードスロットのある機種
  コンパクトフラッシュカードを直接差し込みます。
- PCカードスロットのある機種
  別売のPCカードアダプター<CA-10>を使用します。具体的な使用方法はPCカードアダプターとパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

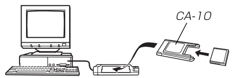


- 前記以外の機種

1）市販のコンパクトフラッシュカード用リーダー／ライターを使用します。
具体的な使用方法はコンパクトフラッシュカード用リーダー／ライターに付属の取扱説明書を参照ください。



2）市販のPCカード用リーダー／ライターと別売のPCカードアダプター<CA-10>を使用します。
具体的な使用方法はPCカード用リーダー／ライターとPCカードアダプターに付属の取扱説明書を参照ください。



メモリーカード内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF（Design rule for Camera File system）規格に準拠した方法でメモリーカードへ保存されます。DCF規格とは、画像ファイルと画像に関連するファイルをデジタルカメラと関連機器の間で簡単に交換することを目的とした規格です。

DCF規格について

DCF規格対応の機器（デジタルカメラやプリンターなど）の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリーカード内のディレクトリ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることが可能です。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。本機では画像ファイルの管理に役立てるため、画像フォルダ名と画像ファイル名に日付を使用しています（105ページ）。

メモリーカード内のディレクトリ構造

■ディレクトリ構造

```
<¥DCIM¥>                         (親フォルダ)
 ├── INDEX.HTM                   (カードブラウザのメインファイル)
 ├── QVCAM.QVS                   (管理ファイル)
 │
 ├─□ HTML                        (カードブラウザ用フォルダ)
 │   │  INDEX2.HTM               (カードブラウザ用ファイル：ここには
 │   │  MENU.HTM                  カードブラウザに必要なファイル、
 │   │    ：                      フォルダが含まれています)
 │
 ├─□ 100_MMDD                    (メイン画像フォルダ)
 │   │  100_MMDD.QVS             (管理ファイル(フォルダ内用))
 │   │  MMDD0001.JPG             (メイン画像ファイル)
 │   │  MMDD0002.JPG             (メイン画像ファイル)
 │   │  MMDD0003.AVI             (メインムービーファイル)
 │   │    ：
 │   │
 │   └─□ PREVIEW                 (プレビュー画像用フォルダ)
 │       │  DATA.HTM             (カードブラウザ用ファイル：ここには
 │       │  INDEX1.HTM            カードブラウザに必要なファイル、
 │       │                        フォルダが含まれています)
 │       │  MMDD0001.JPG         (プレビュー画像ファイル)
 │       │  MMDD0002.JPG         (プレビュー画像ファイル)
 │       │  MMDD0003.JPG         (プレビュー画像ファイル(ムービー用))
 │       │    ：
 │
 ├─□ 101_MMDD                    (メイン画像フォルダ)
 ├─□ 102_MMDD                    (メイン画像フォルダ)
 │    ：

<¥MISC¥>                         (DPOFファイルを収めたフォルダ)
 ├── AUTPRINT.MRK                (DPOFファイル)
 │
```

```
<¥TIFF¥>                         (TIFFデータ用親フォルダ)
 ├─□ 100_MMDD                    (TIFF画像用フォルダ)
 │      MMDD0001.TIF             (TIFF画像ファイル)
 │        ：
 ├─□ 101_MMDD                    (TIFF画像用フォルダ)
 ├─□ 102_MMDD                    (TIFF画像用フォルダ)
 │

<¥SCENE¥>                        (ベストショット用フォルダ)
 ├── S4000001.JPE                (CD-ROMで提供されたシーンファイル)
 ├── S4000002.JPE                (CD-ROMで提供されたシーンファイル)
 │        ：
 ├── U4000201.JPE                (カスタム登録されたシーンファイル)
 ├── U4000202.JPE                (カスタム登録されたシーンファイル)
 │        ：
 └── SCENE.QVS                   (ベストショット管理ファイル)
```


■フォルダ／ファイルの内容

- 親フォルダ
  デジタルカメラで扱うファイル全てを収めたフォルダです。
- カードブラウザメインファイル※
  カードブラウザ機能で使用する表紙ファイルです。このファイルをWebブラウザソフトで開くと画像の一覧表が表示されます。
- 管理ファイル
  フォルダの管理や画像の順番などの情報が記載されているファイルです。
- カードブラウザ用フォルダ※
  カードブラウザ機能で使用するファイルを収めたフォルダです。
- カードブラウザ用ファイル※
  カードブラウザ機能で使用するファイルです。
- メイン画像フォルダ
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルを収めたフォルダです。
- メイン画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルです。
- メインムービーファイル
  デジタルカメラで撮影したムービーファイルです。
- プレビュー画像用フォルダ
  プレビュー画像を収めたフォルダです。属性は隠しファイルとなります。
- プレビュー画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルやムービーファイルと同時に記録されるサイズの小さな画像ファイルです。カメラ内での一時的な再生画面や、カードブラウザ機能の一覧表示に使用されます。
- DPOFファイルを収めたフォルダ※
  DPOFファイルなどを収めたフォルダです。
- TIFFデータ用親フォルダ※
  TIFFデータを収めた親フォルダです。
- TIFF画像用フォルダ※
  TIFF形式で保存した画像を収めたフォルダです。
- TIFF画像ファイル※
  TIFF形式で保存した画像ファイルです。
- ベストショット用フォルダ
  CD-ROMに記憶されているシーンファイルを収めたフォルダです。
- CD-ROMで提供されたシーンファイル／カスタム登録されたシーンファイル※
  ベストショットモードで使用されるファイルです。

参考
- メモリーカード内のディレクトリ構造は「カードブラウザ(HTMLファイル)機能」(120ページ)によって多少異なります。
- ※印のフォルダ／ファイルは、それぞれの機能を使ったときに作られます。

このデジタルカメラで扱える画像ファイル

- QV-4000で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

※ただし、DCF規格の機能で使用できないものもあります。

パソコン上でメモリーカードを扱うときの注意点

- 本機では管理ファイルにて画像ファイルなどの順番、属性を管理しています。したがって、パソコン上でメモリーカード内のファイルを更新したり削除すると、管理ファイルの内容と画像ファイルの順番、属性との整合性がなくなり、メモリーカードをデジタルカメラに戻したときに画像の順番が入れ替わったり、パノラマ画像のグループが解除されたり、ページの送り／戻しが遅くなったりすることがあります。
- メモリーカードの内容をパソコンのハードディスクやフロッピーディスク、MOディスクなどに保存する際は"DCIM"フォルダごと保存し、その後パソコン上では管理ファイル(～QVS)を更新したり削除しないでください。その際"DCIM"フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーカードに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で"DCIM"に戻してからご使用ください。本機では"DCIM"以外の名前のフォルダは認識されません。"DCIM"フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。
- 一度パソコンのハードディスクやフロッピーディスク、MOディスクなどにファイルを保存したあとのメモリーカードは、中のファイルをすべて削除するか、フォーマットしてからデジタルカメラでご使用になることをおすすめします。
- 本機で扱うメモリーカードは、ATAフォーマットで初期化されるため、Macintosh上ではメモリーカード内のすべてのファイルがテキストファイルとしてみなされます。Macintoshでファイルを開くためにPC Exchangeでメモリーカード内の画像ファイル(～.JPG/.JPE/.TIF)をJPEG/TIFFファイルが開けるアプリケーションに関連づけてください。

カードブラウザ(HTMLファイル)機能

カードブラウザ機能とはブラウザソフトを使って本機で撮影した画像を一覧表示したり、撮影データを表示できる機能です。

- 本機で作成したカードブラウザは次のWebブラウザでご覧になれます。ただし、Windows2000/98動画を再生する場合はQuickTimeが必要です。

Microsoft Internet Explorer Ver4.01以上
Netscape Communicator Ver4.5以上

カードブラウザの種類を選ぶ

1. **RECモードまたはPLAYモードにします。**
2. **【MENU】を押します。**
3. **"カードブラウザ"を選び、【十字コントローラ】を右に倒します。**
4. **カードブラウザのタイプを選びます。**
   - 切　：カードブラウザは作成されません。
   - タイプ1：撮影時の情報表示とスライドショー機能がついた高機能タイプ
   - タイプ2：撮影時の情報表示と、軽快な画像確認が行えるタイプ
   - タイプ3：スライドショー機能がついたビューアーに徹したタイプ
   - タイプ4：軽快に画像確認が行えるタイプ
5. **【十字コントローラ】をセンター方向に押します。**
   - カードブラウザのタイプを選んだ場合、電源を切ったときに自動的にメモリーカード内の"DCIM"フォルダに"INDEX.HTM"ファイル、その他カードブラウザ用のファイルが作成されるようになります。
6. **【MENU】を押して設定を終了します。**

参考 • 本機は電源を切るときにカードブラウザ用のファイルを作成しているためメモリーカード内の画像枚数が多いと、電源が切れるまでの時間が枚数に応じて長くなります。カードブラウザ機能を通常使用しない場合は、カードブラウザ機能の設定を"切"にすることをおすすめします。"切"にすると電源が切れるまでの時間が短くなります。

重要! • 本機ではカードブラウザ機能を設定している場合、電源を切ると【液晶モニター】は消灯しますが、【動作確認用／カードアクセスランプ】は数秒間点滅しています。この間は自動的にカードブラウザ用のファイルを作成しています。【動作確認用／カードアクセスランプ】が点滅中に次の操作を行うと、カードブラウザ用のファイルが作成されないばかりでなく、画像データ等のメモリーカード内のデータが破壊される恐れがあります。下記の操作は絶対に【動作確認用／カードアクセスランプ】点滅中に行わないでください。
1)メモリーカードカバーを開ける
2)ACアダプターを抜く
3)【電池カバー】を開ける
4)その他異常操作
• 電池寿命末期やメモリーカードの容量が少ないときはカードブラウザ用のファイルが正常に作成されない場合があります。
• カードブラウザに表示される言語はメニュー言語の切り替え(111ページ)で設定された言語になります。

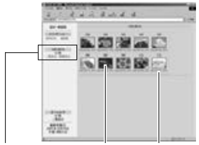
カードブラウザファイルを見るには

カードブラウザファイルはパソコンで使用しているWebブラウザで見ることができます。

1. **パソコンにメモリーカード内のデータを読み込む、またはメモリーカードをパソコンに接続します。**
• メモリーカード内のデータの読み込みかた、メモリーカードの接続のしかたは「パソコンで画像を活用する」(114ページ)、「パソコンでメモリーカードを活用する」(115ページ)をご覧ください。

2. **メモリーカード内の"DCIM"フォルダを開きます。**

3. **"INDEX.HTM"ファイルをWebブラウザで開きます。**
• メモリーカード内の最初のフォルダーの画像が一覧表示されます。



4. **インターネットのホームページを見る要領で下記の部分をクリックして操作します。**
一覧表示：各フォルダ内の画像の一覧が表示されます。
情報表示：各画像の情報が表示されます。
AUTO(スライドショー)
：ディスプレイのサイズいっぱいに画像が表示されます。約5秒間隔で次の画像を表示します。
MANUAL(スライドショー)
：ディスプレイのサイズいっぱいに画像が表示されます。画像をクリックするごとに次の画像が表示されます。
• 一覧表示／情報表示に表示されている画像をクリックすると、
カードブラウザの設定がタイプ1、3の場合：
表示画面に収まるような大きさ(CHILD PAGE)の画像となり、さらにその画像をクリックすると撮影したサイズそのままの大きさの画像が表示されます。
カードブラウザの設定がタイプ2、4の場合：
撮影画像そのままのサイズで表示されます。

重要! • スライドショーで開いた画像は元のサイズにかかわらず画面いっぱいに表示されます。
• "一覧表示"ではプレビュー画像ファイル(118ページ)を使用しています。他のカメラで撮影した画像やパソコンからコピーした画像については、プレビュー画像がないために表示されないことがあります。この場合には、その画像をカメラ内でページ送りをして一度カメラの【液晶モニター】に表示させると、自動的にプレビュー画像が作成されます。その後、カードブラウザを表示させると、一覧表示の画像が表示されるようになります。

一覧表示

情報表示

• 表示される画像情報の内容

ファイルサイズ	：File Size
画像サイズ	：Resolution
撮影画質	：Quality
ドライブモード	：Drive mode
露出モード	：AE
測光方式	：Light metering
シャッタースピード	：Shutter speed
絞り	：Aperture stop
露出補正	：Exposure comp
測距方式	：Focusing mode
フラッシュモード	：Flash mode
シャープネス	：Sharpness
彩度	：Saturation
コントラスト	：Contrast
ホワイトバランス	：White balance
フィルター	：Filter
色強調	：Enhancement
フラッシュ光量	：Flash Intensity
デジタルズーム	：Digital zoom
撮影日時	：Date
モデル名	：Model

5. **カードブラウザを終了するには、Webブラウザを終了してください。**

カードブラウザを保存するには

• 【USB】(USB接続端子)での接続やメモリーカードを直接読み込んだ場合は、メモリーカード内の"DCIM"フォルダごとパソコンのハードディスクや、フロッピーディスク、MOディスクなどに保存してください。その後は"DCIM"内のファイルを更新したり消去しないでください。新たに画像を加えたり、消去したりすると、カードブラウザが正常に表示されなくなることがあります。
• 専用ソフト(Photo Loader)を使用してもカードブラウザを保存することができます。詳しくはPhoto Loaderの取扱説明書をご覧ください。
• メモリーカードを再びデジタルカメラで使用するときは、以前のファイルをすべて消去するか、フォーマットしてから使うことをおすすめします。

付録

メニュー一覧表

RECモード、PLAYモードのメニューに表示される項目の一覧表です。
• 下線の引いてある項目は工場出荷時に選択されている項目です。

RECモード

メニュー	選択内容	
サイズ	2240×1680／2256×1504(3:2)／1600×1200／1280×960／640×480	
画質	高精細／標準／エコノミー／非圧縮	
色強調	切／赤強調／緑強調／青強調／肌色強調	
フィルター	切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫	
彩度	+2／+1／0／−1／−2	
コントラスト	+2／+1／0／−1／−2	
シャープネス	+2／+1／0／−1／−2	
AEB設定	EVシフト量	1/3／1/2／2/3／1
	印刷枚数	3枚／5枚
フラッシュ設定	先幕シンクロ／後幕シンクロ	
フラッシュ光量	強／標準／弱	
シンクロスピード	速い／標準／遅い	
デジタルズーム	切／入	
フォーカス拡大	切／入	
グリッド表示	切／入	

ベストショット設定	内蔵+ＣＦ／内蔵／ＣＦ	
レリーズ設定	切／入	
タイムスタンプ	切／年月日／日時分／年月日時分	
省電力設定	スリープ	切／30秒／1分／2分
	オートパワーオフ	2分／5分
モードメモリ	フラッシュ	切／入
	ホワイトバランス	切／入
	測光方式	切／入
	フォーカス方式	切／入
	デジタルズーム	切／入
	ＥＶシフト	切／入
	リセット	
カードブラウザ	切／タイプ1／タイプ2／タイプ3／タイプ4	
フォーマット	いいえ／はい	
日付	表示スタイル	年/月/日／日/月/年／月/日/年
	時刻設定	日付時刻の設定
ビデオ出力	NTSC／PAL	
Language／言語	English／日本語／Español	
操作音	切／入	
リセット	いいえ／はい	

PLAYモード

メニュー	選択内容	
消去	選択画像	ページ選択
	フォルダ画像	いいえ／はい
	全画像	いいえ／はい
プロテクト	選択画像	画像選択、オフ／オン
	フォルダ画像	オフ／オン
	全画像	オフ／オン
DPOF	選択画像	画像、枚数、日付
	フォルダ画像	フォルダ、枚数、日付
	全画像	枚数、日付
リサイズ	いいえ／はい	
スライドショー		
カードブラウザ	切／タイプ1／タイプ2／タイプ3／タイプ4	
フォーマット	いいえ／はい	
日付	表示スタイル	年/月/日／日/月/年／月/日/年
	時刻設定	日付時刻の設定
ビデオ出力	NTSC／PAL	
Language／言語	English／日本語／Español	
操作音	切／入	
リセット	いいえ／はい	

フルオートモードの撮影条件

フルオートモードで撮影したとき、次の撮影条件が自動的に設定されます。

■メニュー画面から設定する撮影条件

メニュー項目	撮影条件
色強調	切
フィルター	切
彩度	＋1
コントラスト	0
シャープネス	＋1
フラッシュ設定	先幕シンクロ
フラッシュ光量	標準
シンクロスピード	標準
デジタルズーム	切
フォーカス拡大	切
グリッド表示	切

重要! • 上記以外のメニュー項目については、メニュー画面から選択した内容が、そのまま撮影条件として設定されます（124ページ）。

■メニュー画面以外から設定する撮影条件

設定項目	撮影条件
測光方式	マルチ測光
ホワイトバランス	オート
フォーカスモード	マルチエリアオートフォーカス
フラッシュモード	自動発光

各モードの設定内容

各ドライブモードで設定可能な機能

各ドライブモードでの設定項目に関する一覧表です。

○：設定可　×：設定不可

		シャッター半押し		フラッシュモード	セルフタイマー	フォーカスフレーム表示
		フォーカスロック	露出ロック			
ドライブモード	1枚撮影	○	○	○	○	○
	連続撮影	○	○	×（発光禁止）	×	○
	AEB撮影	○	○	×（発光禁止）	×	○
	ムービー	×（追従）	×（追従）	×（発光禁止）	×	×
	パノラマ	○	○	○	○	○
露出モード	フルオート	○	○	×（自動発光）	○	○
	Pモード	○	○	○	○	○
	Aモード	○	○	○	○	○
	Sモード	○	○	○	○	○
	Mモード	○	○	○	○	○
	ベストショット	○	○	○	○	○

ドライブモードと露出モードの併用

各ドライブモードと露出モードの併用に関しての一覧表です。

○：併用可　△：一部併用可　×：併用不可

		露出モード					
		フルオート	Pモード	Aモード	Sモード	Mモード	ベストショット
ドライブモード	1枚撮影	○	○	○	○	○	○
	連続撮影	○	○	○	○	○	△※1
	AEB撮影	○	○	○	○	○	△※1
	ムービー	○	○	○	○	○	×※2
	パノラマ	○	○	○	○	○	×※2

※1 一部のシーンで連続撮影、AEB撮影不可となります。
※2 ベストショット＋ムービーは、フルオートのムービーモードとなります。
ベストショット＋パノラマは、フルオートのパノラマモードとなります。

故障とお思いになる前に

現象と対処方法

	現　象	考えられる原因	対　処
電源について	電源が入らない。	1）電池が正しい向きに入っていない。 2）電池が消耗している。 3）本機専用以外のACアダプターを使用している。	1）電池を正しい向きに入れる（→28ページ）。 2）新しい電池と交換する（→28ページ）。 3）本機専用のACアダプター（AD-C630J）を使用する。
	電源が勝手に切れた。	1）オートパワーオフが働いた（→33ページ）。 2）電池が消耗している。 3）レンズキャップをレンズに取り付けたまま、“ ”（REC）で電源を入れた。	1）再度電源を入れ直す。 2）新しい電池と交換する（→28ページ）。 3）レンズキャップをはずしてから再度電源を入れ直す。
	【液晶モニター】および【コントロールパネル】に“電池消耗マーク”が表示された。	電池が切れる寸前である。	新しい電池と交換する（→28ページ）。
撮影について	【シャッター】を押しても撮影できない。	1）【電源／ファンクションスイッチ】が“▶”（PLAY）になっている。 2）【フラッシュ】充電中である。 3）“メモリーがいっぱいです”と表示されている。 4）メモリーカードが入っていない。	1）“ ”（REC）に合わせる。 2）【フラッシュ】の充電が終わるのを待つ。 3）いらない画像を消去する。または、別のメモリーカードをセットする。 4）メモリーカードをセットする。
	オートフォーカスなのにピントが合わない。	1）【レンズ】が汚れている。 2）被写体が【フォーカスフレーム】の中央にない。 3）ピントの合いにくい被写体である。 4）手ぶれをしている。	1）【レンズ】をきれいにする。 2）被写体を【フォーカスフレーム】の中央に合わせる。 3）マニュアルフォーカスモードに切り替えて手動でピントを合わせる（→56ページ）。 4）三脚を使用してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
撮影について	【MENU】やいくつかの操作ができない。	露出モードがフルオートモードになっている。	他の露出モードに切り替えて操作してください。
撮影について	撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない。	ピントを合わせたい被写体に【フォーカスフレーム】を合わせて撮影してください。
撮影について	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している。	新しい電池と交換する(→28ページ)。
撮影について	【液晶モニター】に表示される画像のピントがあまい。	1) マニュアルフォーカスモードでピント合わせがずれている。 2) 被写体が風景や人物なのに、マクロモードになっている。 3) 接写をしているのに、オートフォーカスモードになっている。	1) ピントを合わせる(→56ページ)。 2) 風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスモードにする。 3) 接写撮影をする場合はマクロモードにする。
撮影について	撮影したのに保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった。 2) 記録が終了する前に【メモリーカードカバー】を開けた。	1) バッテリー残量表示が になったらすみやかに新しい電池と交換する。 2) 記録が終了する前に【メモリーカードカバー】を開けないでください。
再生について	再生した画像の色が撮影時に【液晶モニター】で見た色と違う。	1) 太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている。 2) 撮影時に画質設定を変えて撮影している。	1) 直接光がレンズに当たらないようにしてください。 2) 同じ画質設定で撮影してください。
再生について	9画面表示で【十字コントローラ】が働かない。	画面が停止した状態でないと【十字コントローラ】は働きません。	画面の停止中に【十字コントローラ】を左右に倒してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
再生について	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用している。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードは、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
再生について	テレビにつないでもテレビに本機の【液晶モニター】の表示内容が映らない。	1) 本機とテレビを正しく接続していない。 2) テレビ側の設定が合っていない。 3) ビデオ出力の方式が違う。	1) 専用ビデオコードを使って正しく接続する(→112ページ)。 2) テレビの取扱説明書をお読みになり、テレビの設定をビデオ入力に切り替えてください。 3) ビデオ出力の方式を変更する(→113ページ)。
消去について	“消去”を指定しても消去指定画面に移動できない。	記録されているすべての画像にメモリープロテクトがかかっている。	消去したい画像のメモリープロテクトを解除する(→106ページ)。
その他	PLAYモードのメニュー内で選択できない機能がある。	1) 再生している画像に対して機能しないものは選択できません。 2) 画像が1枚も入っていない。	1) 表示している画像ではその機能を使うことはできません。 2) 撮影してからお使いください。
その他	すべてのボタンやスイッチが働かない。	他の周辺機器との接続中に静電気や衝撃等により、回路内部に障害が発生した。	電池を取り出し、ACアダプターのプラグを本機から抜き、入れ直してから再度操作してみてください。
その他	【液晶モニター】がつかない。	1) スリープ機能が働いている。 2) USB通信中である。	1) スリープ機能を解除してください(→33ページ)。 2) メモリーカードにパソコンからのアクセスがないことを確認してUSBケーブルを抜いてください。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可状態のとき表示されます。撮影し直してください。
画像がありません	まだ何も撮影していない状態、または撮影内容をすべて消去して本機に一枚もない状態です。
このカメラでは表示できません **ファイル形式が異なるかファイルが壊れています**	画像ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
電池が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
フォーマットされていません **このカメラで使用するにはフォーマットする必要があります**	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードのフォーマットを行ってください(36ページ)。
フォーマット → MENU **メモリーカードが異常です** **このカメラで使用するには電源を立ち上げ直してください** **それでもこの表示が出るときはフォーマットしてください** **フォーマット → MENU**	メモリーカードに異常が発生した場合に表示されます。下記の操作で解除が可能です。 重要! • 下記の操作を行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。下記の操作を行う前に、パソコン等を利用してメモリーカード内の正常なファイルを保存してください。 **1.【MENU】を押します。** **2.【十字コントローラ】を上下に倒して“はい”を選び、【十字コントローラ】をセンター方向に押します。** • 操作を中止したい場合は【MENU】を押します。 • フォーマットの操作を行うときは、ACアダプターを使用するか、新品のアルカリ電池またはリチウム電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行われず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。 • フォーマットを終了すると“画像がありません”と表示されます。これは、フォーマットが正しく行われたことを示します。

“メモリカードが入っていません”	本機にメモリーカードが入っていない場合に表示されます。メモリーカードを入れてください(34ページ)。
メモリがいっぱいです **画質／サイズを切り換えるか不要な画像を消去して下さい**	現在の画質／サイズでは撮影できなくなり、他の画質／サイズに切り替えるとまだ撮影できることを示しています。画質／サイズを切り替えるか、不要な画像を消去する操作を行う必要があります(81、101ページ)。
メモリがいっぱいです **不要な画像を消去して下さい**	• 撮影可能枚数を使い切りました。撮影を行いたい場合は、不要な画像を消去する操作を行う必要があります(101ページ)。 • メモリーカードにパソコンからデータを転送したときに、メモリーカード内の空き容量が少ないために“DCIM”フォルダやその他のファイル(120ページ)が作成できない場合表示されます。パソコン上でメモリーカード内の不要なファイルを削除して、空き容量を増やしてください。【MENU】を押してフォーマットすることもできますが、メモリーカード内のデータがすべて消えてしまいます。
LENS CAP	レンズキャップをレンズに取り付けたまま【電源／ファンクションスイッチ】を“ ”にすると、メッセージが表示されて自動的に電源が切れます。レンズキャップをはずしてから再度“ ”にし直してください。

主な仕様／別売品

主な仕様

品名 …… デジタルカメラ

機種名 …… QV-4000

記録画像ファイル
フォーマット …… 静止画(パノラマ画像含む)：JPEG(Exif Ver.2.1)/TIFF、DCF*準拠、DPOF対応
動画：AVI (Motion JPEG)
* Design rule for Camera File systemの略です。

記録媒体 …… コンパクトフラッシュカード(Type Ⅰ/Ⅱ対応)、IBM社製マイクロドライブ対応

記録画素数 …… 2240 × 1680pixels
2256 × 1504(3:2)pixels
1600 × 1200pixels
1280 × 960pixels
640 × 480pixels

記録枚数／画像ファイルサイズ(可変長)

• 静止画

出力画素数(pixels)	撮影画質	ファイルサイズ	コンパクトフラッシュカード16MB	コンパクトフラッシュカード64MB	マイクロドライブ1GB
2240 × 1680	FINE	約1.8MB	約7枚	約30枚	約513枚
	NORMAL	約1.2MB	約10枚	約43枚	約730枚
	ECONOMY	約0.72MB	約15枚	約60枚	約1026枚
	TIFF	約11.025MB	約1枚	約5枚	約87枚
2256 × 1504 (3：2)	FINE	約1.6MB	約8枚	約33枚	約566枚
	NORMAL	約1.1MB	約12枚	約50枚	約842枚
	ECONOMY	約0.66MB	約19枚	約77枚	約1314枚
	TIFF	約9.99MB	約1枚	約5枚	約97枚
1600 × 1200	FINE	約0.85MB	約15枚	約60枚	約1026枚
	NORMAL	約0.6MB	約19枚	約77枚	約1314枚
	ECONOMY	約0.35MB	約30枚	約124枚	約2053枚
	TIFF	約5.625MB	約2枚	約10枚	約171枚
1280 × 960	FINE	約0.5MB	約22枚	約88枚	約1493枚
	NORMAL	約0.35MB	約30枚	約124枚	約2053枚
	ECONOMY	約0.2MB	約51枚	約207枚	約3285枚
	TIFF	約3.6MB	約3枚	約15枚	約269枚
640 × 480	FINE	約0.15MB	約77枚	約311枚	約4693枚
	NORMAL	約0.09MB	約101枚	約415枚	約6571枚
	ECONOMY	約0.06MB	約154枚	約622枚	約8213枚
	TIFF	約0.9MB	約15枚	約62枚	約1026枚

• ムービー(320×240pixels)

記録容量	約300KB／秒
撮影時間	一度に撮影可能なムービーの最長時間は30秒

消去 …… 表示されている画像、1画像単位、フォルダ単位、全画像一括消去可能(メモリープロテクト機能付き)

撮像素子 …… 1/1.8インチ正方画素原色CCD(総画素数：413万画素、有効画素数：398万画素)

レンズ …… F2.0(W)−2.5(T) f=7(W)−21(T)mm(35mmフィルム換算 約34(W)〜約102(T)mm相当)

ズーム …… 光学ズーム3倍／デジタルズーム3.2倍(光学ズーム併用9.6倍)

焦点調節 …… コントラスト方式マルチエリアオートフォーカスマニュアルフォーカス可能、スポットオートフォーカスモード、マクロモード、無限遠モード、フォーカスロック可能

撮影可能距離(レンズ表面より) …… 標準： 約30cm〜∞
接写： 約6cm(W)／約20cm(T)〜約50cm
マニュアルフォーカスにより約6cm(W)／約20cm(T)〜∞

露出制御 …… 測光方式： 撮像素子によるマルチパターン測光／中央重点測光／スポット測光
制御方式： フルオート、プログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AE、マニュアル露出
露出補正： −2EV〜+2EV(1/3EV単位)

シャッター …… CCD電子シャッター／メカシャッター併用 BULB、60〜1/1000秒

絞り …… F2.0/2.3/2.8/4.0/5.6/8.0

ホワイトバランス …… 自動／固定(4モード)、マニュアル切替可能

セルフタイマー …… 作動時間10秒、2秒

内蔵フラッシュ …… 発光モード：自動発光、強制発光、発光禁止、赤目軽減機能切替可能
フラッシュ撮影範囲：約0.5〜約3.5m

撮影関連機能 …… 一枚撮影、連続撮影、ムービー撮影、パノラマ撮影、AEB(段階露出)撮影、セルフタイマー撮影、マクロ撮影、ベストショット撮影

モニター …… 1.8型TFT低反射カラー液晶(HAST) 122.100(555×220)画素

ファインダー …… 液晶モニター／光学式ズームファインダー

時計機能 …… クォーツデジタル時計内蔵日付・時刻：画像データと同時に記録
自動カレンダー：2049年まで

入出力端子 …… シャッターレリーズ用端子、外部電源端子、USB接続端子(MINI-B端子)、ビデオ出力端子(NTSC／PAL標準方式準拠)

電源 …… 乾電池×4(単3形アルカリ電池およびリチウム電池)
充電池×4(単3形ニッケル水素蓄電池(NP-H3))
3Vリチウム電池パック(CR-V3P)×2
ACアダプター(AD-C630J)
ACアダプターチャージャー(BC-3HA)

電池寿命

以下の電池寿命は、標準温度(25℃)で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

使用電池	連続再生時	連続撮影時
単3形アルカリ電池 LR6	約3時間	約1時間15分(約460枚)
単3形リチウム電池 FR6	約5時間20分	約3時間 (約1130枚)
リチウム電池パック CR-V3P	約6時間	約3時間25分(約1230枚)
ニッケル水素蓄電池 NP-H3	約3時間	約1時間40分(約600枚)

※ アルカリ電池、リチウム電池パックは松下電池工業(株)製、リチウム電池は富士写真フィルム(株)製の場合の数値です。電池寿命はメーカーによって異なります。連続撮影枚数は、フラッシュを使用せずに撮影した場合の撮影可能枚数です。フラッシュの使用、電源のON/OFFなどの条件により数値は異なります(詳細については29ページをご参照願います)。

消費電力 …… 約6.8W

サイズ …… 幅118mm×高さ74.5mm×奥行き64.5mm

質量 …… 約355g(電池、付属品除く)

付属品 …… ネックストラップ、レンズキャップ、キャップホルダー、専用ビデオコード、専用USBケーブル、CD-ROM、アルカリ電池(LR6×4本)、取扱説明書(保証書付き)、専用ソフト取扱説明書(インストール編)

電源について

• 充電式電池は、別売品のニッケル水素蓄電池(Ni-MH)NP-H3をご使用ください。他の充電式電池については動作保証いたしかねます。
• 本機には時計専用の電池は入っておりません。単3形電池やACアダプターで電源が供給されていないと、約24時間で日時がリセットされますので、その場合は再度設定をしてください(39ページ)。

液晶パネルについて

• 【液晶モニター】に使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

別売品

• コンバージョンレンズアダプター LU-35A
※推奨のコンバージョンレンズ/クローズアップレンズや、市販のフィルター使用時にはコンバージョンレンズアダプターが必要です。

• シャッターレリーズ WR-3C

• PCカードアダプター CA-10

• ACアダプター AD-C630J

• ACアダプターチャージャー BC-3HA

• ニッケル水素蓄電池／急速充電器セット BC-1HB4

• ニッケル水素蓄電池(4本セット) NP-H3P4

• ソフトケース QSC-1

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオホームページでもご覧になることができます。

http://www.casio.co.jp/

索引

MEMO

MEMO